

31

14

諸教便覽  
全

013662-000-2

31-14

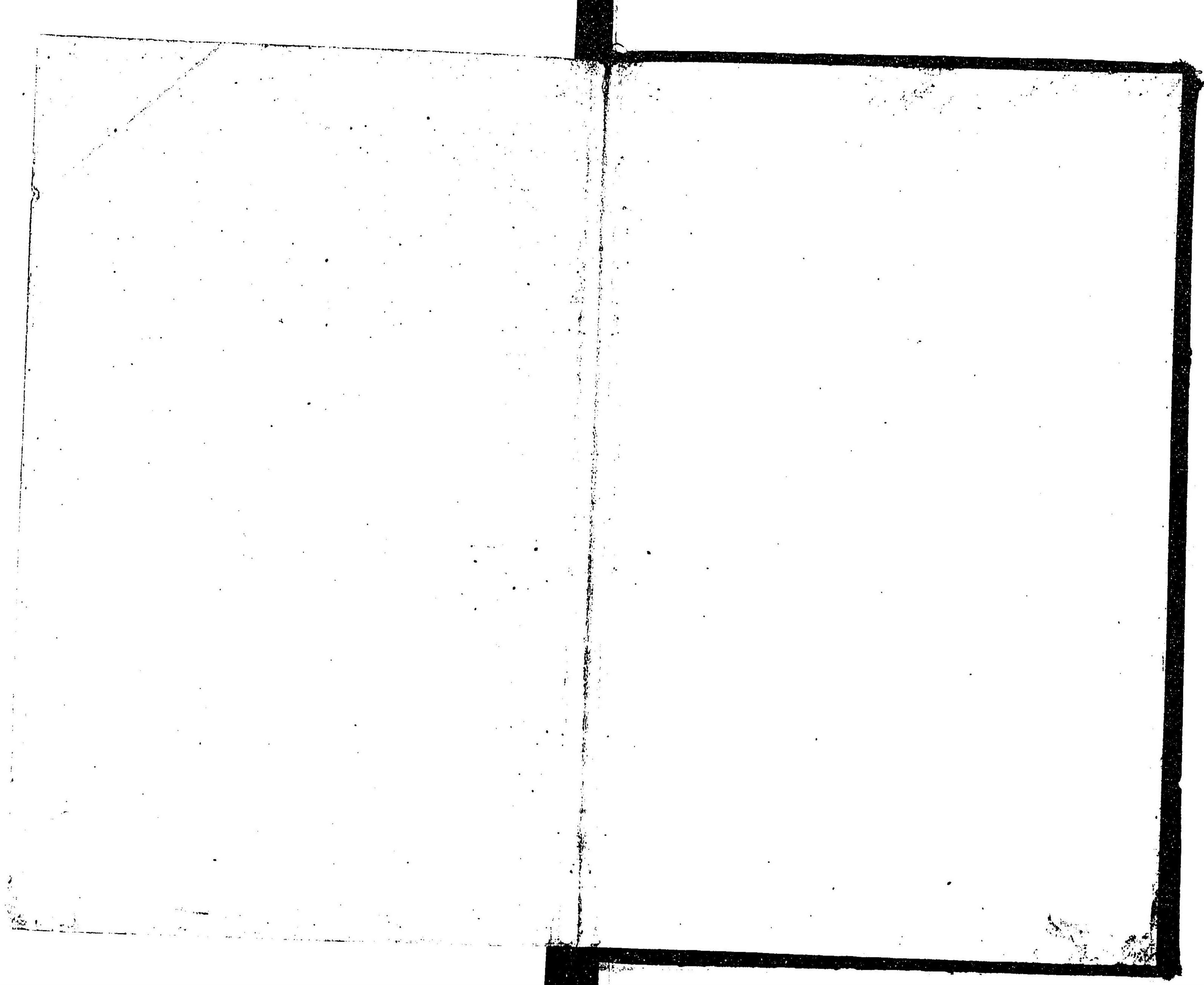
諸教便覽

高橋 五郎/著

M14

ABA-0131





高橋吾良著

諸教便覽

全

明治十四年十一月出版

東京圖  
書館  
香山

目 録

第一	神道	一丁ヨリ 廿六丁ニ至ル
第二	佛道	廿七丁ヨリ 五十八丁ニ至ル
第三	婆羅門	五十九丁ヨリ 六十八丁ニ至ル
第四	道教	六十九丁ヨリ 八十丁ニ至ル
第五	耶蘇教	八十一丁ヨリ 九十六丁ニ至ル
第六	回回教	九十七丁ヨリ 百八丁ニ至ル

東京圖書館藏

東京圖書館藏

東京圖書館藏

諸教便賢序

古之時、吾人本然之性既失、行善如登、從惡如崩、  
 原夫名邑大都、皆有聖賢為之君、為之師、教之以  
 忠信孝弟仁義道德之說、而務致其回復天良、得  
 和平忻喜矣、然猶存於今、其言頗高、而化旋細、其  
 法雖美、而習輒乖也、蓋何居乎、無他、各國有教、祇  
 表舉世之會、入於邪辟也、而教門甚多、識異見殊、  
 學者不可以不加謹密焉、耶蘇曰、凡事省察、惟據  
 今將以真理論之、是高橋君所以有此著也、  
 耶蘇教流行吾國也、聖神默祐、真光燭照、速

東京

書館

書局

於置郵而傳命南自長崎北至根室信納者早已  
幾千人矣何其如是快也豈可不洵稱啓牖之示  
乎今天人立之教總之真假交錯是非抵牾而尚  
之崇之自稱爲智反成愚魯宜觀有形影物猶難  
免紕繆而况於猜精爽之象乎哉乃我言地之事  
爾尚不信則言天之事豈能信不其然乎獨由天  
而降依然在天之子而外孰能明曉天情通達天  
道哉蓋天下雖分爲萬邦其本仍是一家人皆語  
一話奉一教焉爾嗣後風俗漸靡天倫有缺幸而  
矜恤真實之上帝不忍以坐視其淪胥以鋪變爲

禽獸也持興以色列人以爲選民與亞伯拉罕立  
約許以祝福賜迦南地爲業而復起摩西及諸先  
知者預言救主之降誕與天國之榮耀也於是乎  
迄耶蘇果來焉福音播揚四境振興萬物以行上  
帝自永世知其凡所行者也夫吾國已既思籠既  
優旣渥加之忝班清系承信主祖而今方受爲義  
子之靈矣斯蓋上帝之旨儻無亦非以爲東方之  
木鐸歟然則耶和華我以爾爲寶蓋全地屬我也  
爾曹將於我爲祭司之國成聖之民者實所厚望  
也世讀是書者其知所擇也冀有副高橋君著述

之意也、是爲序、  
吾主一千八百八十一年十一月四日東京長老  
會美濃千村五郎撰

諸教便覽緒言

鎖港攘夷ノ說一タビ其勢力ヲ失テヨリ天下諸國ノ人  
ノ通商貿易ノ爲メ或ハ學術經驗ノ爲メ我邦ニ來ル者  
甚ダ多クシテ其數年ヲ遂テ増加ス既ニ其人々ハ天下  
諸國ヨリ來ルガ故ニ唯其言語ノ異ル而已ナラズ風俗  
慣習モ亦各同カラズシテ其崇奉スル所ノ宗教ニモ亦  
種々ノ別アリ聞ク所ニ依レバ昨年我國ノ人貿易ノ爲  
メ波斯國ニ臻リテ彼國ノ皇帝ニ謁見セシニ皇帝ハ我  
國ト和親ヲ結バンコトヲ望ムトノ勅語ヲ賜ヘリト云  
フ又土耳其ノ皇帝モ我國ノ武官某ニ同様ノ勅語ヲ傳  
ヘ玉ヘリト聞ク斯ク此後尙ホ諸國ノ人ノ來遊スルナ

ル可シ其人若シ波斯國ヨリ來ヲバ回々教ヲ携ヘ渡ル  
ナラン印度人ナラバ婆羅門教ヲ持テ來ル可シ而テ我  
邦ハ早ク已ニ宗教上ノ管束ヲ釋メレハ各人自由ニ是  
等ノ教ヲ聽クコトヲ得又自在ニ之ヲ信スル事ヲ得ル  
ナリ然ルニ天下ノ諸教ノ中ニハ眞アリ僞アリ尊信ス  
可キアリ蔑棄ス可キアリ必ズ一概ニ之ヲ視ル可キニ  
非ズ是ヲ以テ凡ソ其諸教ヲ聽ク者ハ先詳ニ其教理ノ  
眞理ニ合フヤ否ヤヲ尋テ然ル後ニ其可否ヲ決ス可キ  
ナリ又我國ニハ現ニ二三ノ教法アレバ總テ外教ヲ聽  
ク人ハ彼此相較ベテ其優劣眞假ヲ探リ知ルヲ要ス然  
リト雖モ一國ノ人ノ皆自ラ徧ク諸教ノ理ヲ探リ尋テ

ン事ハ到底得ベカラサル事ナリトス是故ニ人々多ハ之  
ヲ其傳道者ノ言ニ由テ知ルヲ以テ足レリトス而テ其  
傳道者ハ如何ナル教ニ屬シ如何ナル教ヲ傳フルモ皆  
自己ノ傳宣スル所ヲ以テ無比ノ良教ト明言シ人ヲ誘  
テ其道ニ入ラシメントス然レバ世人如何シテカ眞實  
ノ良教ヲ知ル事ヲ得ン皆相率テ僞教ニ甘言ニ就クモ  
知ル可ラズ仰モ宗教ハ人類ニ最大幸福ヲ與フル者ト  
言フナルニ若シ人誤テ妄教ニ從ハゞ其望ム所ノ幸福  
ハ得ズシテ反ツテ最大不幸ヲ取ルニ至ル可シ嗚呼誰  
カ是ノ如キ大事ヲ痛痒相關セズトシテ顧慮セザル事  
ヲ得ン思フテ此ニ至レバ一書ノ必要ナルコト明カナ



リ一書トハ何ゾヤ天下諸教ノ理義ヲ明ニシテ世人ニ  
 一目ソ下ニ其眞僞ヲ見セシムル者はナリ爰ニ東京ノ  
 飯島氏余ニ斯ル書ヲ著ハサンコトヲ請フニ遭フ余欣然  
 ト之ヲ諾ヒテ此書ヲ作レリ但シ妄リニ諸教ヲ謗ルニ至  
 ラン事ヲ恐レ深ク自ラ諸教ノ經論ヲ學ビ其教ノ本旨ヲ  
 述ブ決テ僻論ノ比ニ非ズ願クハ讀者善ク此事ヲ記憶セ  
 ヲ書中記セル所ノ宗教ハ神道、佛道、婆羅門教、禪那教、琳愛  
 謁教、道教、耶蘇教、回回教、等ナリ又佛教ノ下ニ天台宗、眞  
 言宗、禪宗、淨土宗、淨土眞宗、法華宗等ノ本意ヲ述ブ若シ  
 此小冊ヲ以テ數人ヲ益スル事ヲ得バ満足ノ至リナリ  
 明治十四年十月十一日  
 高橋 吾 良

諸教便覽

第一 神道

神道ハ儒佛ト共ニ鼎足ヲ爲シテ缺ク可ラザル者ナリ  
 ト古來人ノ言傳フル道ニシテ我國體ニ大關係アリシ  
 者ナレバ諸教ニ先ツテ此ニ先其道ノ義理ヲ辨ゼザル  
 可ラズ先ツ神道ハ宗教ト名ク可キ者ナルヤ否ヤト問  
 ハンニ識者ハ皆之ヲ以テ宗教ニハ非ズト爲ラル可シ  
 聞ク所ニ依バ神官諸氏ノ中ニモ學識アル者ハ之ヲ宗  
 教トハ認メラレズト云フ神道若シ是ノ如ク宗教ニ非  
 バ之ヲ宣傳スルハ其當ヲ得ザルガ如シト雖モ神官諸  
 氏ハ皆之ヲ宜ベ傳フルヲ善トセラル是ハ今年(明治十

四年)二月東京ニ於テ開カレタル神官會議ノ決議ニ就  
テ之ヲ見ル可キナリ其定規ノ第二章第四條ニ曰ク管  
長ハ本局(神道事務局)ニ在テ部下ノ教導職ヲ監督シテ  
布教一切ノ事務ヲ總轄スト又其第六條七條ニ曰ク全  
國ヲ分置シテ教區ヲ置キ一教區ニ一分局(神道事務分  
局)ヲ置クト是ニ由テ見ル時ハ神官諸氏ハ神道ヲ以テ  
一教一道ト爲シ教導職ヲ出シテ徧ク之ヲ全國ニ弘メ  
ント務メラル、ナリ神官諸氏ガ此會議ヲ開カル、時  
ニ當リテ東京横濱毎日新聞(第三千四十七號)ハ大ニ其  
會議ヲ非難シテ曰ク到底此會議タル神官輩ガ自家ノ  
職務ヲ相談スル場所ニシテ毫モ政事ニ關係ナケレバ

此神官等ハ何故ニ自家ノ同僚中ニテ議長役員ヲ撰ビ  
神道ノ事務ハ神官自ラ之ヲ爲シ政府ノ事務ハ肉食ノ  
輩自ラ之爲セヨ(斯ク言ヘルハ政府ヨリ議案ヲ受ケ)ト云  
ノ氣象ヲ示サヅルヤト遂ニ論ジテ曰ク神道ヲ以テ宗  
教トスルハ余輩未ダ信ズル能ハザル所ナリ神官教導  
職ハ如何ナル經卷ヲ以テ宗徒ノ經典トスルヤ古事記  
日本記ノ類ヲ以テ此宗徒ノ經卷トセンカ此等ノ典籍  
ハ只是レ古代ノ事跡ヲ記シタル者ニシテ彼ノ基督宗  
徒ノ奉崇スル約書又ハ釋迦宗徒ノ奉崇スル經卷ノ比  
ニ非ズ良シヤ神道宗徒自身ニ是等ノ古史ヲ以テ經典  
ナリト尊崇スルモ日本人民ハ之ヲ神典聖籍ナリト敬

崇セザルヲ如何セシ然バ彼ノ明治五年四月教部省達  
教則第三ヶ條ヲ以テ神道宗徒ノ教本トセンカ此三箇  
ノ教則タル只是レ人類道德一般ノ規則ニシテ此規則  
ノ尊崇ス可キハ神官教導職ニ限ルナク佛教宗徒ト雖  
モ我日本國ノ臣民タラバ此教則ニ遵ハザル可ラズ三  
條教則ヲ見ルニ第二條ハ天理人道ヲ明ニス可シト云  
ヒ第三條ハ皇上ヲ奉載シ朝旨ヲ遵守セシム可シト云  
フ若シ夫レ天理人道ヲ破リ我國臣民ノ列ニ在リ乍ラ  
我皇命ヲ奉セザル者アラバ是國法ヲ破リ國民ノ義務  
ニ背ク者ナレバ只道德ノ罪スルノミナラズ法律ノ決  
シテ默視セザル所ナリ只教則第一條敬神愛國ノ敬神

ノ二字ハ恰モ宗教ニ彷彿タル語氣ヲ顯ス如クナレモ  
此神トハ如何ナル神ヲ指ス者ナル乎若シ彼ノ耶蘇宗  
徒ガ言フ所ノ造物主トセバ我神道宗ハ耶蘇宗ト其區  
別ヲ失フニ至ラン若又我開闢已來歷世皇帝ノ神靈ヲ  
指ス者ナル乎歷世皇帝ノ神靈ヲ指ス者ナラバ我政府  
ハ教導職ニ命シテ我國歷世皇帝ノ神靈ヲ敬崇セヨト  
令スルニ止ツテ之ヲ以テ直チニ神道宗徒ノ教本ナリ  
トス可ラズ况ヤ此教則タル政府ノ政令ニシテ宗教ト  
ハ全ク其區域ヲ異ニスルヲヤト  
然ルニ神官諸氏ハ是等ノ非議ヲ空吹ク風ト聞流シテ  
益々進ンデ布教ニ從事セラル近頃傳フル所ニ依レバ

神道事務局ニテハ農事科ト曰フヲ設ケテ其職制ヲ定  
 メタリト云フ而シテ其目的ハ我國古來ノ農業ニ基キ  
 傍ヲ漢洋ノ農業法ヲ折衷シテ自今盛ニ農事ヲ興シテ  
 神道ノ教礎ヲ固ウスルニ在リト云フ是ニ由テ觀ルト  
 キハ其志ス所甚遠大ナルガ如シ  
 諸神官等ノ爲ス所既ニ是ノ如クナレバ今此ニ神道ノ  
 教義ヲ尋究スルハ必ズ無益ノ事ニハ非ル可シ熟惟ル  
 ニ神道トイフ語ニハ二種ノ意義アリ其第一ハ古人ガ  
 此語ヲ用ヒ始メタル時ニ之ニ付ケタル者其第二ハ後  
 世ニ至リテ神官等ガ是ヲ一教一道ト誤認シテ之ニ與  
 ヘタル者ナリ而シテ今日ノ神官諸氏ガ常ニ宣布サル

、所ノ神道ハ其第二ノ意義ヲ含ムナリ是故ニ余ハ嘗  
 テ著ハシタル神道新論ノ第一章ニ於テ神官等ガ神道  
 トイフ語ヲ用フル事ノ非ナルコトヲ詳カニ論シテ其  
 誤謬ヲ矯シタリ

抑我國ノ所謂神道ハ其本ハ純朴無爲ノ意ニシテ機巧  
 有爲ニ對セル者ナレバ其實ハ太古之風ト解釋ヲ下ス  
 可キ者ナリ是故ニ古ノ人之ヲ惟神ト稱セリ惟神ハか  
 むおがらト訓テ其意ハ隨神道亦自有神道ヲ謂フ平田  
 翁古史徵開題記ニ本居翁ノ言ヲ引テ是義ヲ解キ明シ  
 テ曰ハレケルハ師ノ曰ク惟神者謂隨神道亦自有神道  
 也トアルヲ熟ク思フ可シ神ノ道ニ隨フトハ天ノ下治

八  
メ玉フ御事業ハ只神代ヨリ來シマニマニ物シタマヒ  
テ聊モ巧智ヲ加ヘ玉フコト無キヲ云フ倅然カ神代ノ  
マニマニ大ラカニ知ロシメセバ自ラ神ノ道ハ足ヒテ  
他ニ求ム可キコト無キヲ云フナリケリ故現ツ御神ト  
大八洲國知シメスト申スモ其御世ノ天皇ノ御政ヤ  
ガテ神ノ御政ナル意ナリ萬葉集ノ歌ナドニ神隨云々  
トアルモ同シ意ゾ神國ト韓人ノ申セリシモ宜ニゾア  
リケル云々ト是レ神道ノ本意眞解ニシテ余ガ前ニ第  
一ノ意義トイヘルハ即チ此事ヲ指セルナリ  
是故ニ神道トハ上ニ言ヘル如ク太古之風ノ異稱ニシ  
テ其實ハ文化ニ對スル者ナリ夫レ古人ハ皆神道ナル

質朴ノ風俗ヲ尙ビタルガ故ニ智巧ノ進ムヲ見テハ之  
ヲ神道ノ衰微セル澆季ノ徵候ト爲シテ痛ク思慮ヲ勞  
シタルガ如シ今其一例ヲ舉ンニ延喜十四年ニ三善清  
行朝臣ガ上ラレタル意見封事ノ中ニ左ノ如キ言語ア  
リ臣伏案舊記我朝神明傳統天險開疆土壤膏腴人民當  
庶故東平肅慎北降高麗西虜新羅南臣吳會三韓入朝百  
濟內属云々其所以爾者何也國俗敦彪民風忠厚輕賦稅  
之科疎徵發之役云々一國之政猶如一身之治云々自後  
風化漸薄法令滋彰賦斂年增徭役代倍戶口月減田畝日  
荒是ニ由テ其他ヲ推知ス可シ漢人ハ楚ノ如キ時態ト  
曰フ例ハ淮南子ニ太清之化也和順以寂漠  
質直以素樸トアルガ如キモノ即チ是ナリ

十  
楮神道ノ本義ハ斯ノ如クナリシト雖モ後世ニ至リテ  
神祭ニ從事スル者ドモハ古事記日本紀等ニ見エタル  
我國ノ古傳説チ一ノ教ト認メ之ヲ儒道佛道ニ並ベテ  
神道ト呼ビ做セリ此ニ至リテ神道ノ意義一變シヌ此  
事固ヨリ神職等ノ誤謬或ハ妄造ニ由ルト雖モ亦神官  
等ヲ誘ヒテ是ノ如ク爲サシメタル者アルナリ然ラバ  
其之ヲ誘ヒタル者ハ何ゾヤ即チ古事記日本紀等ノ書  
ニ見エタル我國ノ古傳ノ誤解是レナリ  
余嘗テ神道新論トイフ書ヲ著シテ我國ノ古傳説ノ本  
意眞義ヲ解キ明シタリ其事甚タ長ケレバ此ニハ一  
之ヲ述ル能ハズ今其綱領ヲ舉テ之ヲ言ハンニ我國ノ

古傳ハ造物ノ化工ト先祖ノ行爲トヲ記シタル者ナレ  
バ其中ニ言フ所ノ神ニハ二種ノ別チアリテ一ハ造化  
ノ妙用ヲ指シ一ハ先祖タル古人ヲ指スナリ(其之ヲ神  
ト稱シタル所以及ビ神字ノ意味等ハ神道新論ニ委シ  
ク論シ置タル上ニ事長ケレバ此ニハ記サズ然ルヲ記  
傳ノ隱微ニシテ詳ナラザルガ爲ニヤ人々早クモ此區  
別ヲ忘レ果テ其二ツヲ混同シテ共ニ之ヲ祭ルニ至レ  
リ但シ其初ハ尙ホ先祖ノ祭ニシテ孝子順孫ガ追慕ノ  
念ヲ表スルノ禮ナリシガ是ヨリ又一轉シテ後世ノ人  
ハ其所謂神々ヲ以テ禍福ノ權ヲ握ル者ト爲シ之ヲ崇  
敬禮拜セリ而シテ遂ニ世ノ人舉リテ之ニ福祉ヲ祈リ

求ムル事トハナリニタリ是ヲ以テ古今ノ中ニ己ニ神  
 祇令トイフ者アリ其文ニ曰ク凡天神地祇者神祇官皆  
 依常典祭之ト又同令中ニ六月十二月ノ大祓ノ事ヲ記  
 セリ其文ニ曰ク凡六月十二月ノ晦日ノ大祓者中臣上  
 御祓麻ハラヘンノササキ東西文部上祓刀讀祓詞チハシバ訖百官男女聚集祓所中  
 臣宣祓詞ト部爲解除ト此大祓ノ時ニ讀上ケタル詞ヲ大  
 祓ノ詞トイフ俗ニ之ヲ中臣祓ト  
 呼而テ朝廷ヨリハ五位以上ノ人ヲ遣ハシテ重立タル  
 社々ニ幣帛ヲ供セラレタリ是レヨリシテ益々神ヲ祭  
 ル事盛ンニナリ行キテ遂ニ天平九年ニハ左ノ如キ詔  
 ノ出ルニ至レリ曰ク在諸國能起風雨爲國家有驗神未  
 預幣帛者悉入供幣之例ト是ニ至リテ先祖ノ祭ナル跡

ハ見エズナリテ靈驗アラタナリト思ハル、神ヲ崇メ  
 尊ズ風トハ成リヌ是故ニ神道ノ字義自ラ變リテ上ニ  
 述タル第二ノ意義ニ移レリ是レヨリシテ神道ハ佛道  
 ト並ベ稱セラル、ニ至ル而シテ後世ニ至リテハ儒者  
 等モ亦神道ヲ以テ一道一教ト認メタルガ如シ試ニ羅  
 山子ノ神社考ニ言ハレタル所ヲ見ヨ其言ニ曰ク夫本  
 朝者神國也中世佛氏移彼西天之法變我東域之俗神道  
 漸廢而以其異端離我而難立故設左道之說曰其本地佛  
 而垂跡神也時之王公大人信伏不悟遂至令神社佛寺混  
 雜而不疑巫祝沙門同住而共居嗚呼神在而如亡神若爲  
 神其奈何哉

借神道ハ此ノ如ク一ツノ道トナリ一ツノ教トナリタ  
 ルガ故ニ今余ハ之ヲ一教ト爲シテ此ニ其教體ト教旨  
 ナ尋ントス先神道ノ所謂神トハ如何ナル者ナルヤ迦  
 微神トハ天地ノ諸ノ神等ヲ始メテ其ヲ祀レル社ニ坐  
 ス御靈ヲモ申シ又人ハ更ニモ言ハズ禽獸草木ノ類海  
 山ナド其餘何ニマレ尋常ナラヌ優レタル徳ノ有テ長  
 キ者ヲ迦微トハ言フナリ抑モ迦微トハ斯ノ如ク種々  
 ニテ貴キモアリ賤キモアリ強キモアリ弱キモアリ善  
 キモアリ惡キモ有リ心モ行モ其狀々ニ隨ヒテトリド  
 リナリ貴キ賤キニモ段々多クシテ最賤キ神ノ中ニハ  
 威徳少クテ凡人ニモ負ルサヘ有リ彼ノ狐ナド怪キ態

ナ爲ズ事ハ何ニモ狡クテ巧ミナル人モ掛テ及ブ可キ  
 ニ非ズ眞ニ神ナレドモ常ニ犬ナドニスヲ制セラル、  
 バカリノ微シキ獸ナリ  
 夫レ神道ノ神(迦微)ハ已ニ是ノ如キ者ナレバ今日ノ人  
 ガ鳥獸ナドヲ祭り拜ムハ然ノミ笑フ可キ事ニハ非ズ  
 借神道ノ神ハ斯ル者ニシテ其數ハ八百萬千萬ト限リ  
 ナキガ其無量ノ神々ヲ祭ルユトハ神道ノ體ナリ然ラ  
 バ其諸ノ神ヲ祭ルハ何ノ爲ナルヤ是ハ其神ヤガ禍福  
 ノ權ヲ握リテ之ニ事フル者ニハ幸福ヲ與ハ之ニ背ク  
 者ニハ災禍ヲ降スニ由ルト云フ爰ニ其幸福ハ如何ナ  
 ル者ナルヤト尋ルニ其ハ皆人ノ情慾ヲ饜シ滿スノ愉



快ヲ指ス者ニシテ絶テ高尚遠大ノ清喜淨樂ヲ謂ニハ  
 非ズ譬バ衣食ニ十分ニシテ愛慾ノ念ヲ滿シ疾病等ノ  
 苦痛ヲ免カレテ長壽ヲ保テ人ノ上ニ立テ世ヲ渡ルガ  
 如キ事ヲ以テ其幸福ノ極ミトス今其證據ニ一例ヲ舉  
 グ可シ世ノ神道者ガ用ヒ來レル諸國坐大神奉拜祝詞  
 トイツ詞ニ云ク上畧皇神等ノ見ハルカシマス天ノ下  
 四方ノ國ハ天ノ壁立ツ極ミ國ノ退立ツ限リ青雲ノ霧  
 夕極ミ白雲ノ隨居伺伏ス限リ大海原ハ棹櫂乾サズ船  
 艦ノ到ル極ミ舟滿テ連ケテ陸ヨリ往ク道ハ荷ノ緒結  
 ヒ堅メ磐根樹根踐サクミテ馬ノ蹄ノ至ル限リ長路間  
 ナク狹キ國ハ廣ク峻キ國ハ平ケク遠キ國ハ八十綱打

カケテ引寄ル事ノ如ク引寄セ玉ヒテ皇御孫命ノ大御  
 世ヲ堅磐ニ常盤ニ祝ヒマツリ茂シ御世ノ足シ御世ニ  
 幸ヒ玉ヒテ天ノ下ノ百姓ノ作りト作ル田種子圃種子  
 ナ始メ草ノ片葉ニ至ル迄暴キ風洪キ水ニ傷ハセズ悉  
 ク實ヲシメテ高山ノ御山ノ如ク國モ狹キマデ積置シ  
 メ玉ヒテ有ユル人ノ心足ハシ裏表ノ邪キ心穢キ心ヲ  
 攘ヒ放テ攘ヒ清メテ裏表ノ邪キ心穢キ心ヲ除クトイフ  
 トイフ詞ノ中ニ人ハ天ガ下ノ御靈物ナリ須ク鎮メ静マル  
 事ヲ主トシ我身ハ即チ六根清淨ナリ六根清淨ナルガ  
 故ニ天地ノ神ト同根ナリナド有ルヲ取リテ言ヘル者ニテ  
 是ラモ古傳ノ本文ニ基ケル神道ノ教ニハ非ズ又其外ニ  
 神ハ正直ナリトイフハ支那ノ古語ニ本ケル者ナリ因ニ  
 云フ身體清之詞ト云フ者ハ此倭姫ノ託宣トイフ者ト同種  
 類ナレバ固ヨリト觀スルニ世ノ禍事ニ相交ユラズ家内安ク  
 足ラザル者ナリト觀スルニ世ノ禍事ニ相交ユラズ家内安ク

オダヒニ豊饒ヒ彌榮エニ榮ヘシメ神隨石長姫ノ命ノ  
彌遠長キ御壽命ノ如ク奇ク靈シキ神ノ齡ヲ授ケ幸ヘ  
玉ヘト禱リ奉ルト斯ル禱リハ專ラ此世ノ事ニ關スル  
者ナリ

而シテ天理人道ニ基キテ道德仁義ヲ行フ等ノ事ハ其  
道ノ命ズル所ニハ非ズ神道ノ所謂神々ハ多クハ皆自  
ラ其嗜慾ヲ追ヒ求メ其情ヲ縱ニシタル者ニシテ絶テ  
道義ニ心ヲ用ヒタル者ニ非レバ人ニ教フルニモ亦嗜  
慾ヲ満足セシムル事ヲ以テシテ道德ヲ勸メザル可キ  
ハ理ノ然ル所ナリトス然レバニヤ彼所謂國學者或ハ  
和學者ト稱スル人ノ中ニハ男女ヲ問ハズ其愛慾等ヲ

恣ニスル事ヲ以テ神隨ノ道ト爲シテ忌マザル者アリ  
シヤニ聞及ベリ偕其幸福ハ已ニ此ノ如キ者ナレバ其  
ハ固ヨリ唯今生ニ限ル者ニテ絶テ來世ニ及ブ者ニハ  
非ズ試ニ神職等ガ讀ムナル十種神寶咒歌トイフヲ見  
ヨ「物隈の落ることあく邊つ鏡幸ハ玉へ玉へ身の終るま  
で」又嗚呼樂し事足る玉ハ玉の緒の長くぞ續く奇ばし  
き魂」ナドノ歌アリ皆幸福ノ此世ニ限ルコトヲ示スナ  
リ他教ニ言フ所ニ依レバ未來ノ幸福ハ今世ノ善業ノ  
結果ナリト云フ然ルニ神道ハ既ニ道德ヲ説カズ何ゾ  
未來ノ幸福ヲ望ムコトヲ得ンヤ  
神道ハ斯ノ如ク未來ノ幸福ヲ言ハザレバ又來生ノ苦

患即チ死後ノ刑罰ヲモ説ザルナリ神道ニテ言フ所ノ  
 罰惡ハ時ノ政事ヲ亂ス所ノ事ヲ指ス者ニシテ道德仁  
 義ニ背クコトヲ指スニハ非ズ例ヘバ人體ノ毀傷、親子  
 ノ犯淫等ヲ以テ其罪惡トス但シ此等ノ罪ハ皆大祓ノ  
 時悉ク消エ失セテ譬ヘバ大風ノ雲霧ヲ吹キ拂フガ如  
 ク大船ヲ大洋ニ押シ放ツガ如ク皆跡方モナク消エ行  
 クト言フ  
 諸神道ニハ是ノ如ク未來ノ幸福ト苦患ト説カザレバ  
 其道ニハ天道地獄ノ無キコト明カナリ實ニ神道ニハ  
 地獄極樂ノ如キ説ハ曾テ有ルコトナシ高天原ハ善人  
 ノ死後ニ往生ス可キ天道ニハ非ズ月夜見(月界)ハ惡人

ガ死後ニ往テ刑罰ヲ受ルノ地ニハ非ズ(平田翁ハ靈能  
 眞柱ニ月界ヲ地獄ト説カレタレドモ其ハ翁一巳ノ説  
 ニシテ神道ノ説ニ非ズ)神道ニハ天道地獄ヲ要セザル  
 ナリ如何ナル惡人ニモアレ死後ニ之ヲ祭ル時ハ皆神  
 靈トナリテ人ニ擁護ヲ垂ル又如何ナル善人ニモセヨ  
 之ヲ祭ラザレバ威徳アルコト無シ善惡ノ應報ハ神道  
 ノ言ハザル所ナリ但シ然ラバ死人ノ魂ハ都テ死後ニ  
 何處ヘ往ク者ナルヤ神道家ノ信ズル所ニ依レバ死者  
 ノ靈魂ハ凡テ己レガ家ニ長ク留リテ其子孫ノ守護ヲ  
 爲スナリ角田忠行君ノ著ハサレタル葬事畧記ニ病者  
 ノ心得ヲ言ヘル所アリ其文ニ曰ク病者モ其家ニ靈魂

ナ留メテ吾子孫ヲシテ御國ニ君ニ忠ヲ盡サシムル守  
 リ神トナラム事ヲ常ニ思ヒ定メテ有リ又可シト又同  
 書ニ嗣子ガ靈前ニ申ス誅ノ文例ヲ示サレタルガ其中  
 三御靈ハ常ヘニ此家ニ留リ玉ヒ隠リ世ヨリ惠ミ幸ヘ  
 守リ玉ヘト御子某涙オン拭ヒツ、恐ミ恐ミモ申ス「ト  
 言ヘル詞アリ是等ハ皆死者ノ靈魂ノ其家ニ長ク留マ  
 ル事ヲ謂ヘル者ニシテ全ク上ニ説ケル先祖祭ノ遺意  
 ナリ  
 偕神道ノ教體ト教旨ハ大抵此ノ如シ之ヲ他教ニ比ス  
 レバ其言フ所甚ダ淺シ此ハ全ク上ニ言ヘル如ク教ニ  
 非ルヲ教トシ道ニ非ルヲ道ト爲シタルニ由リテ然ル

ナリ但シ神道ニハ此外尙ホ一ノ擧テ言フ可キ事アリ  
 其ハ全ク古傳ヨリ出タル者ニシテ尋常ノ神道家ガ意  
 ナ用ヒザル所ノ者ナリ前ニ引キタル本居翁ノ言ニ依  
 レバ神ニハ善キモ有リ惡キモ有リト云フ古傳ニ曰ク  
 「是ニ上ツ瀨ハ瀨速シ下ツ瀨ハ瀨弱シト詔テ玉ヒテ始  
 メテ中ツ瀨ニ下リカヅキテ滌ギ玉フ時ニ成リマセル  
 神ノ御名ハ八十禍津日神次ニ大禍津日神次ニ其禍ヲ  
 直サントシテ成リマセル神ノ御名ハ直毘神次ニ大直  
 毘神ト斯ル言ヲ記セリ此ハ波斯國又ハ印度ニ行ハレ  
 タル善惡二神ノ説ト相似タル者ニシテ其意ハ天下ノ  
 善事ハ皆善神ノ作ス所天下ノ惡事ハ皆惡神ノ作ス所

ナリト謂フニ在リ抑天下ノ事ハ一善アレバ一惡之ニ  
 從ヒ一利アレバ一害次デ至ル者ニ誠ニ禍福ハ糾繩  
 ノ如シ是ハ實ニ人間ノ免カレザル所ナリ意フニ我等  
 ノ祖先タル太古ノ人ハ善惡禍福ノ相追フヲ見テ其善  
 ナルヲバ善キ神ノ所爲トシ其惡ナルヲバ惡キ神ノ所  
 業ト考ヘ做シタルナル可シ是故ニ古傳ノ中ニ上ニ引  
 キタル如キ言アルナリ本居翁ノ曰ク禍事ニ善キ事イ  
 繼ギ善キ事ニ禍事イ繼グト平田大人ノ曰ク諸ノ善キ  
 事ハ皆直毘神ノ爲ス者諸ノ惡キ事ハ皆禍津日神ノ荒  
 ビニ由リテ出デ來ル者ナリト是ハ皆彼ノ古傳ノ語ニ  
 本イテ言ハレタル者ナルガ神道家モ亦此理ヲ取り用

ヒテ不淨ヲ清ムル時ニハ左ノ如キ身滌祓之詞ヲ讀ム  
 ナリ

高天原ニ神留リマス皇御祖ノ大神伊邪那岐ノ命イ  
 ナ醜目穢キニ觸玉ヒテ日向ノ立花ノ小戸ノ阿波岐  
 原ニ御滌シ玉フ大御時生マセル八十禍津日神大禍  
 津日神ノ曲ヲバ神直毘神大直日命ニ矯シ玉ヒテ伊  
 豆能賣神中略大海原ノ諸ノ神等諸ノ汚キ穢レヲ掃  
 ヒ玉ヘ清メ玉フ事ヲ祓所ノ八百萬ノ神等ニ平ゲク  
 安ケク聽シメシタマヘト白ス

想フニ神道ノ中ニテ觀ル可キ者ハ只此善惡二神ノ説  
 ナリ其餘ハ皆先祖祭ノ開發セル者ニシテ今日ノ世ニ

在リテハ最早言フニ足ラズ且又此善惡二神ノ説スラ  
モ甚ダ模糊タル者ニシテ格別ニ意ヲ用フ可キ者ニハ  
非ズ

右者神道ノ大意ナリ斯ル教道ヲ以テ此駸々ト日々  
ニ文化ニ赴ク所ノ人ヲ教ヘントスルハ猶ホ二五ヲ  
知ラザル稚童ガ學術ニ勉勵スル少年ヲ教ヘントス  
ルガ如クニシテ到底爲シ得ベキ事ニハ非ズト考ヘ  
ラル其理由ハ言フニ及バズ假令ヒ又上ニ言ヘル如  
ク神道ヲ以テ太古之風ノ儀トナシテ之ヲ以テ世ノ  
開進ヲ制シ止メントスル者アルモ同ク其目的ヲ達  
シ得ベキニハ非ズ如何トナレバ是ハ猶ホ氷塊ヲ積

テ暑氣ノ増スヲ防ガントスルガ如クナレバナリ

### 第二 佛道

佛道ハ其初メ天竺(印度)ニ起リタル教ニシテ之ヲ立テ  
タル者ハ瞿曇釋迦牟尼ト云フ人ナリ其父ハ迦維羅衛  
國ノ王ニテ名ハ首圖駄那淨飯ト曰ヒ母ハ摩耶ト曰ヘ  
リ此教天竺ヨリ東ニ弘マリ行テ暹羅蒙古支那朝鮮ニ  
傳ハリ遂ニ欽明天皇ノ十三年十月朝鮮ノ一部ナル百  
濟國ノ王聖明トイヘル者ノ手ヲ經テ公然ト日本ニ渡  
來セリ其時百濟王聖明ハ釋迦ノ銅像並ニ經論幡蓋等  
ノ種々ノ物ヲ朝廷ニ獻ジ佛道ノ尊信ス可キ者ナルコ  
トヲ言上セリ其表ニ云ク

佛法ハ諸ノ教ノ中ニテ最モ勝<sup>ス</sup>レタル道ニテ其義甚  
 ダ深シ解ニモ難ク曉ルニモ難シ周公孔子サヘモ之  
 ナバ知ルコトヲ得ザリシナリ此道ハ信スル者ヲシ  
 テ無量無邊ノ福德果報ヲ得サシム又無上ノ菩提ヲ  
 得サシム此佛法ヲ信ズル時ハ願フ所ノ事皆心ノマ  
 ヲニ護ララル譬ヘバ隨意寶(摩尼珠ナリ思フマハニ)ヲ  
 持ツガ如シ此道ハ始メハ天竺ヨリ出テ此遠キ三喇  
 マデ傳ハリヌ人々皆教ノ如ク之ヲ信奉シテ尊バヌ  
 ハ無シ是ニ由テ朝廷ノ臣ナル百濟王明今陪臣怒喇  
 斯致契トイフ者ヲ遣ハシテ之ヲ日本帝國ニ傳ヘ奉  
 ル願クハ此道ヲ御幾内ニ弘メテ釋迦牟尼ガ我法ハ

東ニ傳<sup>ル</sup>空<sup>ク</sup>養<sup>フ</sup>ト宣<sup>ス</sup>置<sup>カ</sup>以<sup>タ</sup>ル預言<sup>ハ</sup>遂<sup>ニ</sup>成<sup>ル</sup>也  
 此ニ百濟王ガ陳<sup>ス</sup>タル福德云々ノ事ハ全ク佛道以<sup>テ</sup>友  
 便<sup>ニ</sup>説<sup>ク</sup>ニ最モ人心ヲ満足セシムルニカアル者ナリ抑  
 人情ハ皆幸福ヲ願フ者ニテ人々ガ常ニ爲ス所ハ皆幸  
 福ヲ得ンガ爲ニナス者ナルノミ而シテ無量無邊ノ福  
 徳果報ヲ得ルコトハ幸福ノ最モ大ナルモノナリ而シ  
 テ又其幸福ハ佛道ヲ信スルニ由テ得ラルト云才然  
 レバ誰ガ佛道ヲ尊信セザル者アラシ今日ノ佛徒ガ佛  
 法ヲ信ズルモ全ク此思ヒヨリ信ズルナリ且又之ニ反  
 シテ若シ佛法ヲ信セザル時ハ地獄ニ墮<sup>ク</sup>テ無量ノ苦患

ナ受クトイフナリ彼ノ苦ヲ嫌ヒ樂ヲ求ムル人情豈故  
 ラニ地獄ノ苦患ヲ取ンヤ相率<sup>ヒキ</sup>并テ佛法ニ就クコト明  
 カナリ但シ地獄ノ説モ亦方便<sup>ホウベン</sup>ナル而已佛者ハ先ヅ初  
 メニ此大力ノ方便ヲ以テ衆生ヲ誘ヒ後ニ至リテ上根  
 ノ人ニ其眞面目ヲ示スヲ常トス然ドモ世ニハ上根上  
 智ノ人ノ乏シキガ爲カ多クハ皆其方便ヲ眞面目ト思  
 ヒ誤リテ此世ヲ去リ行ク實ニ古今一轍ナリ悲シトモ  
 憐レトモ言ハシ方ナシ  
 借斯ク百濟王ガ佛法ヲ渡シタル世ニハ日本ニハ只先  
 祖祭ノ如キ者ノ行ハレタル而已ニテ人衆ノ心ヲ満足  
 サズ可キ宗教トテハ絶<sup>ツク</sup>大加<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>佛<sup>法</sup>入<sup>ル</sup>殊勝<sup>ト</sup>

ルコトヲ聞ク之ニ心ヲ傾クル者モ數多ク又リ其勢  
 ヒ既ニ是ノ如クナリケレバ物部ノ尾輿<sup>オノノ</sup>大連<sup>オホノ</sup>中臣<sup>ナカノ</sup>  
 鎌子<sup>カマコ</sup>ノ連<sup>ノ</sup>及<sup>ツ</sup>ビ守屋<sup>モリヤ</sup>ノ大連<sup>オホノ</sup>等<sup>ト</sup>力ヲ盡シテ佛法ヲ防ギタ  
 レドモ之ヲ撲滅スルコトヲ得ズシテ反ツテ佛道ハ其  
 ガ爲ニ益々進ミ行ク事トハナリタリ爰ニ推古天皇ノ  
 三十三年正月ニ高麗<sup>カウライ</sup>ノ僧慧灌<sup>エヰクワン</sup>ガ中論百論十二門論<sup>チュウロンヒャクロンジュニモンロン</sup>  
 三論ヲ携ヘ來リテ我國ニ三論宗ヲ弘メテヨリ道昭傳  
 教弘法等ノ諸高僧各自ヲ二宗ヲ弘メラレテ終ニ佛道  
 ハ八宗ニ分レテ國中ニ傳ハリ行キヌ其後ニ至リテ親  
 鸞日蓮ノ二僧亦各一宗ヲ開イテ終ニ十宗トコソハナ  
 シタリケリ



抑佛道ノ奧義ハ甚ダ深ク甚ダ妙ニシテ學業アル人ニ非  
 レバ容易ニ之ヲ了ルコトヲ得ザル者ニシテ龍樹菩薩ノ  
 大智度論ニ依レバ凡テ佛道ノ真理ヲ明カニ知ラント  
 欲スル者ハ智慧ト見聞ノ二ツヲ兼備セザル可ラズト  
 云フ試ニ其本文ヲ見大論第五十八卷ニ云ク有慧無  
 多聞是不知實相譬如大暗中有目無所睹多聞無智慧亦  
 不知實相譬如大明中有燈而無目多聞利智慧是所說應  
 受無聞無智慧譬如人身牛ト如何ニ難キ事ニ非ズヤ  
 今余其教義法相解脫又始終ヲ詳カニ語ラシテ欲スレ  
 る其事甚ダ宏ク大イニシテ二三ノ紙葉ニ書キ盡サ  
 ル可キニ非レバ此クハ其奧義ヲ如何ヲシテ語ル可

シ其詳細ヲ知ラシテ欲スル者余亦嘗テ書キテ佛  
 佛道新論ニ就テ之ヲ學バシヨ一ニ佛道ニ就テ  
 佛道ニ臻極ノ眞實ハ無明無知トイフ迷ヒテ離レテ涅  
 槃トイフ圓寂ニ歸ル事ヲ成住壞空ノ四劫ヲ創世說  
 ヲ六道ノ輪廻因果應報等ノ諸說ハ海山ノ如ク多  
 ト雖モ是ハ皆夢中ノ所業ニシテ大悟セル者ノ談ズル  
 所ニハ非ルナリ眞悟ヲ得タル人ハ涅槃ノ事サカモ言  
 フヲ好マズ大聲ニ叱呼シテ曰フ誰曰生死誰爲涅槃涅  
 槃生死猶如昨夢ト佛道新論第九章ヲ見ヨ偕其涅槃圓  
 寂ニ入りタル者ハ如何ニナルカト尋ルニ都テ涅槃ニ  
 入ル者ハ皆其身ヲ失ヒ已レトイフ者ヲ失ヒテ言語文

字ハ言フニ及バズ思想ノ力モ及ビ難キ所謂不可思議ノ妙體トナルト云フ其時ニ至リテハ極樂淨土ト言フ可キ處モナク阿彌陀如來ト頼ム佛モ无ク八功德池ニ舟ヲ浮ベテ蓮花ヲ見ルノ樂ミモ无ク伽陵頻伽ノ妙音モ聞エヌシテ只空々寂々ノミナリ此空々々圓寂ニ達スルヲ一乘眞實之理ト謂フ是ヲ佛道ノ臻極ノ眞實トス其餘ハ皆假リノ言説ナリ門ヲ扣クノ瓦ナリ誠ヲモ哉惠心僧都ガ病中ノ覺悟憐シナリ哉惠心僧都ガ最後夢幻天台宗ノ僧惠心ハ寛永三年ニ一乘要訣トイフ書ヲ造リ其文ニ曰ク諸宗ガ權實ヲ論テ古來又等ナリ皆經

論ニ依テ互ニ是非ヲ爲因余寛弘兩午ノ年冬十月病宗臥セル時自ラ嘆シテ曰ク佛道ニ逢カレモ佛之本意ヲ曉ラズバ何シ益カ有レ後悔ハ先キニ立タヌナリ余遍經論ノ義理ヲ賢哲ヲ疏ヲ尋テ全ク自宗他宗ノ偏執ヲ離レテ專ラ權智ヲ實智ニ深キ奥ヲ探ルニ一乘ハ眞實ノ理ニシテ五乘人乘天乘聲聞乘緣覺辟支佛佛乘菩薩乘不也ハ方便ノ説ト明ラヌ曰ク今生ノ業ヲ開キテ假令夕ベニ死ス下モ何シ恨ミテ殘サシク善クモ言ヘル者哉但シ此僧死期ニ臨ンテ觀音菩薩來迎セラレヌトテ其弟子ニ語りテ曰クケルハ我ハ一乘ノ菩提ヲ以テ極樂ニ生ス今二人ノ天童子來リテ我ヲ誘フ觀世

音モ來迎セラル我ガ本望遂ゲヌト嗚呼迷ヘルモ亦甚  
 イ哉初メノ悟リハ何所ヘ往キケンカ  
 此ニ謂フ所ノ一乘ハ圓頓ノ教ニシテ即チ一佛乘ナリ  
 法華經ニ云ク舍利弗如來但以一佛乘故爲衆生說法无  
 有餘乘若二若三皆无有舍利弗一切十方諸佛法亦如是  
 舍利弗過去諸佛以煩量數方便種々因緣譬喻言辭而爲  
 衆生演說諸法是法皆爲一佛乘故ナリト是即大惠心僧  
 都ガ曉リタル所ニテ佛法ノ奧義ナリ然レモ世ノ人  
 多クハ方便ヲ信シテ一佛乘ト認メテ本ガ上ニ僧徒  
 中ニモ希レニ一佛乘内知者アル而已ニシテ皆未來  
 ノ快樂ヲ得ント望キ因ニ余命左ニ重立チ教宗

門ノ本意ヲ明カニシテ同胞兄弟ノ宿惑ヲ一掃セント  
 ス  
 日今我國ニテ最モ勢力アル宗門ハ天台眞言禪宗淨土  
 淨土眞宗法華宗ノ六宗ナリイデヤ是ヨリ此順ヲ遂フ  
 テ諸宗ノ本意ヲ述ベシ  
 天台宗ハ唐土ノ智者大師ガ法華經ニ本キテ立ラレタ  
 ル宗門ナリ故ニ之ヲ天台法華宗トモ云フ其旨ハ權實  
 二教トテ方便ト眞實ノ二ツヲ用ヒテ衆生ヲ教化スル  
 三在リ是ハ經三人若シ此眞實ノ法ヲ信ズル根氣ナキ  
 時ハ餘ノ解シ易キ法ノ中ヲ取りテ示ス可シト有ルニ  
 據ルナリ是故ニ無學下根ノ者ニハ極樂ノ歡樂ヲ宣テ

信心ヲ起サシム又利根上智ノ者ニハ凡聖一如一念三千ノ妙理ヲ示スナリ  
 先其方便ノ手段ハ阿彌陀如來ノ救濟ヲ説クコトニテ  
 其意ハ惠心僧都ノ往生要集ニ見エタリ其文ニ曰ク  
 夫レ往生極樂ノ教行ハ濁世末代ノ目足ナリ道俗貴  
 賤誰カ之ニ歸セザラン但シ顯密ノ教法ハ其文一ニ  
 非ズ事理ノ業甚ダ多シ利根上智精進ノ人ハ是ヲ難  
 シトセズ然レモ余ガ如キ拙キ者ハ爭デカ之ヲ修ス  
 ルコトヲ得シ是故ニ念佛ノ一門ニ由テ聊カ經論ノ  
 要文ヲ集ム之ヲ聞キ之ヲ修スルニ覺エ易ク行シ易  
 シ

是ハ彼又止觀ノ語ニ本ク者ナリ止觀ニハ彌陀入名ヲ  
 唱フルハ十方ノ佛ノ名ヲ唱フルト同ジト言ヘリ然レ  
 バニヤ念々聲々皆彌陀ニ在リト傳ヘ來ヌ此彌陀ヲ念  
 ズレバ極樂往生疑ヒナシ是ヲ方便ノ説トス  
 次ニ其實ノ本旨ヲ曉ル者ハ彌陀極樂ヲ喜ビ求メズ  
 淨土ハ胸中ノ莊嚴彌陀ハ一心ノ異名ト觀ズ是故ニ實  
 ノ如クニ觀念スレバ彌陀ノ淨土モ凡夫ノ一念ヲ超エ  
 ズ地獄ノ上ニモ佛界アリ佛界ノ中ニモ地獄アリ誠ニ  
 萬事萬物ハ皆一念ノ上ニ具ハル之ヲ一念三千ト言ヒ  
 テ天台圓宗ノ極意トス  
 此故ニ天台宗ニ入ル者ハ上智ナル時ハ極樂ヲ得ド下

愚ナルトキハ方便ノ淨土ニ迷ヒ往クナリ  
**眞言宗**ハ大日經、金剛頂經、蘇悉地經ノ三經ニ基イテ立  
 タル宗ナリ我國ノ高僧弘法大師之ヲ唐ノ惠果阿闍梨  
 ニ授カリ來リテ偏ク之ヲ日本ニ弘メラレタリ此宗ハ  
 密宗トモ稱スル者ニシテ其本意ハ即身成佛ノ大理ヲ  
 説クニ在リ其理ソ甚深秘密ナルヲ以テ之ヲ密宗ト呼  
 ブ又其言談スル所ハ悉ク眞如ノ理ナルカ故ニ眞言ト  
 モ名ク  
 先此宗ニテハ三種ノ成佛ヲ説ク即チ一ニハ理具ノ成  
 佛、二ニハ加持ノ成佛、三ニハ顯得ノ成佛ナリ理具ノ成  
 佛トハ現在ノ萬物皆佛ナリト見ルヲ云フ地水火風ノ

如キ原質ハ大日如來ノ上ニモ衆生ノ上ニモ皆同ク具  
 ハル者ニテ其質ニ異ル所チニ是故ニ大日如來ト衆生  
 トハ一體ノ物ニシテ皆共ニ其身其儘佛陀ガ必加持ノ  
 成佛トハ六波羅密(度)ハ勿論其外諸ノ行ヲ修シ行キテ  
 佛ノ境界ニ達スルヲ云フ顯得ノ成佛トハ密印ヲ結ビ  
 明咒ヲ唱ヘテ我此肉身ハ即チ大日如來ノ法身ナリト  
 觀念スルヲ云フ  
 菩提心論ニ云ク眞言ノ教ハ即身成佛ノ眞義ヲ明ス他  
 ノ諸教ニ有ラザル所ナリト誠ニ眞言密宗ハ草木國土  
 自リシテ有リト有ユル萬物ヲ以テ皆一味平等ノ者ト  
 爲ス然バニヤ弘法大師ハ蝦蟇ハ荷葉ニ上リテ獨リ正

覺(十悟)ヲ爲シ蟬ハ廣葉ニ鳴テ自ラ法輪ヲ轉ズト説キ  
 置カレヌ是ニ因テ人間モ天上モ差別ナク極樂モ地獄  
 モ別異ナラズ皆其儘ニテ大日如來ノ法界ナリト知ル  
 可シ之ヲ凡聖一如萬法一味ト謂フ既ニ是ノ如クナレ  
 バ地獄ノ如キモ迷フテ之ヲ地獄ト認レバ則チ地獄ナ  
 リト雖モ悟ルトキハ地獄ニ非スシテ安樂淨土ナリ今  
 金剛上味經ニ曰フ所ヲ聞カレヨ  
 釋迦佛其弟子文珠ニ告テ曰ク地獄ノ門ハ何所ヨリ  
 起ルヤ文珠答ヘテ曰ク一切ノ事物ハ皆人心ノ妄リ  
 ニ造リ出セル者ナリ一切ノ凡夫ハ其身ノ忘念ニ由  
 リテ自ラ己レヲ縛ル自ラ己レヲ縛ルガ故ニ地獄ア

リ是故ニ地獄ハ實ニ有ルニハ非レドモ彼ノ自ラ迷  
 ヒ自ラ縛ル者ハ地獄ノ苦ミヲ受ク譬ヘバ人ノ夢ニ  
 自ラ地獄ニ落テテ百千萬ノ火ニ燒カレ沸湯ノ鑊ニ  
 投ゲ入レラルト見ルガ如シ其人ハ夢ノ中ニ叫ビテ  
 甚ダシク苦ント言フ若シ人之ニ問フテ汝ハ何ヲ苦  
 レムト言ハハ其人ハ必ズ答ヘテ我ハ地獄ノ鑊ノ中  
 ニ煮ラルト告ン其時人若シ之ニ答ヘテ汝ハ睡眠テ  
 スク夢ミル而已怖ル、勿レ夢ナリトテ之ヲ起サバ  
 何如ン其人ハ目醒テ其夢ノ所ノ皆虛妄ナリシヲ了  
 ラン若シ是ノ如ク了リテ見ルトキハ身モ心モ共ニ  
 安ラカナリ誠ニ地獄ハ有ルニハ非ズト雖モ人自ラ

迷フテ地獄ニ隨テタリト信ズル而已唯地獄ノミナ  
 ラズ萬事萬物ハ皆虛妄ヨリ生ズ釋迦佛其時文珠ヲ  
 讚テ曰ク善イカナ一切ノ地獄如是見無有地獄  
 之ヲ佛道ノ真悟トス然レハ又極樂ト認ム可キ極樂モ  
 無キコト明カナリ嗚呼世人ガ地獄ヲ恐レ極樂ヲ樂フ  
 テ真宗ニ入ルハ木ニ縁リテ魚ヲ求ムル如クニ迷ヒ  
 ノ中ニ迷ヒタル哉  
 禪宗ハ釋迦牟尼佛ガ死ニ臨シテ摩伽迦葉ニ付囑シタ  
 ル甚深妙道法ヲ説ク宗門ニシテ之ヲ漢土ニ傳ヘタル  
 ハ南天竺ガ婆羅奈國ノ香志王ガ第三子ナル達摩大  
 師ガ漢土ニ僧惠可之ヲ達摩ニ受ケタリト云フ其後

我國ノ高僧榮西禪師彼國ニ渡リテ虛庵ノ敝禪師ヨリ  
 達摩己來相傳ハリタル教義ヲ受ケテ歸ラレタリ之ヲ  
 我國ニ禪宗ノ弘マレル始メトス(但シ其傳ハレル事ハ  
 是ヨリモ古シ道昭傳教等モ之ヲ持テ來レリ)  
 此宗ノ言フ所ハ其義甚ダ深クシテ下根薄智ノ能ク曉  
 ル所ニハ非ズ達摩大師ハ教外別傳不立文字直指人心  
 見性成佛ト説カレタリ昔シ伽葉尊者ハ釋伽ガ手ノ花  
 ヲ見テ佛性眞實ヲ了リ惠可ハ達摩ニ見エ雪中ニ立テ  
 左腕ヲ斬テ茲ニ始メテ悟リヌ抑モ眞實ノ體ハ言語文  
 字ノ能ク説キ至ル者ニ非ズ只自ラ證シ自ラ悟ルノミ  
 是故ニ楞伽經ニ云ク佛ノ曰ク我ハ道ヲ得タル初メヨ

リ涅槃ニ入ルノ今日迄一字一句モ説キタルユト无シ  
 十誠ニ然リ然ドモ今假リニ下根ノ人ノ爲メニ言ハシ  
 ニ此宗ノ理ハ諸ノ分別ヲ離シ此身モ佛身モ同一物同  
 一空ニシテ我ハ即チ佛陀佛陀ハ即チ我我モ空佛モ空  
 本來無東西豈南北有ンヤト觀シ本來空ノ處ニ向ヒテ  
 無念ノ念ヲ爲スニ在リ茲ニハ則チ因果ナシ佛陀衆生  
 ナシ迷悟ナシ只十方空ノミ  
 是ヲ以テ禪理ニ通達セル者ハ龍樹菩薩ノ言ヘル如ク  
 其心ニ證スルユトモ無ク嘆ルユトモナク喜ブユトモ  
 ナシ其外此宗ニテ爲ス所ノ諸事ハ皆門ヲ扣ク瓦ニシ  
 テ門ノ一タビ開キタル時ハ皆無用ト成リ行ク者ナリ

然レバ其等ハ言フニ足ラズトス  
 淨土宗ハ法念上人ノ立ラレタル者ナリ法念上人ハ徧  
 リ諸宗ノ奥妙ヲ探リタル人ナリシガ惠心僧都ノ往生  
 要集ヲ讀ムニ至リテ大イニ思フ所アリテ遂ニ念佛宗  
 ナ立シユトニ心ヲ決メタリト云フ念佛トハ其口ニ常  
 ニ阿彌陀如來ノ名ヲ唱フルヲ謂フ是ハ全ク無量壽經  
 ノ中ナル彌陀ノ誓願ニ本ク者ニテ末世衆生ハ下根薄  
 智ナレハ迎モ深妙ノ佛理ハ會得シ難キニ因テ專ラ唱  
 名念佛ヲ勸メテ總テノ人ヲ安樂國土ニ生レシメント  
 ノ意味ナリ是ハ猶ホ病身ノ人ガ大牢ノ美味ヲ捨テ淡  
 泊ノ粥ヲ取ルガ如シ大牢ノ美味ハ固ニ甘シト雖モ病



身ノ者ハ之ヲ消化セシムル胃力ナキガ故ニ却ツテ之  
 ガ爲ニ大害ヲ引キ起スナリ斯ル人ニハ柔ヲカキ粥ノ  
 如キ者ヲ至極適當トス是故ニ淨土宗ノ念佛ハ唯念々  
 彌陀ノ名ヲ唱フルマデニシテ天台宗ノ念佛ノ如ク觀  
 念ヨリ出タル者ニハ非ズシテ尤モ爲シ易シ法念上人  
 ノ曰ク「我が念佛ハ唐土我朝ノ智者等ノ沙汰シ申サル  
 、觀念ノ念ニモ非念又念ノ心ヲ曉リテ申ス念佛ニモ  
 非ズ只愚痴無智ノ輩ガ一念十念ニ助ケタマヘトバカ  
 リ啗フル念佛ニシテ其念佛ノ中ニ皆極樂往生ヲ決定  
 スルナリ」ト是ノ如ク念佛宗ハ只管ニ彌陀ノ他力本願  
 ナ頼ミテ禪真等ノ如ク自力ヲ用ヒヌナリ

是ニ因テ淨土宗ニ入ル者ハ只口ニ南無阿彌陀佛南無  
 阿彌陀佛ト唱ヘサヘスレバ念佛ノ功力ニテ極樂淨土  
 ニ往生ヲ遂ルナリ誠ニ行ヒ易キ事ナラズヤ若シ是宗  
 ノ意ノ佛理ニ合ヒテ眞ニ成佛ヲ得セシムル者ナラン  
 ニハ此宗ニ超タルハ無ル可シ然レドモ如何ニヤアラ  
 ン余之ヲ然カ認ムル能ハズ(其他半自力半他力等ノ説  
 尙多ケレド益ナケレバ言ハズ畧シヌ)

**淨土眞宗** ハ親鸞聖人ガ淨土宗ノ旨ヲ取リテ立タレタ  
 ル者ナリ其救ヒノ道並ニ自力他力等ノ事ハ淨土宗ト  
 然ノミ異ル所ナシ此宗ニテハ肉食妻帶ト曰ヒテ僧徒  
 ニ魚肉ヲ食フ事ト妻ヲ持ツ事トナ許ス是ハ實ニ佛道

上ニ起リタル一大變ナリ是ヨリ以前ハ僧徒ハ皆堅  
 ク戒律ヲ守ル可キ者ト成リ居タルガ上ニ朝廷ニテハ  
 古ヘハ法律ヲ設ケテ破戒ノ僧尼ヲ懲罰セラレタリ其  
 法甚ダ嚴ナリ令ニ曰ク凡僧尼飲酒食肉服五辛者三十  
 日苦使ト其外天文ヲ觀テ災祥ヲ説ク者兵書ヲ習フ者  
 吉凶ヲ卜相フ者並ニ妄リニ罪福説ク者等ハ皆其懲罰  
 ナ蒙ムリタリ然ルニ親鸞聖人ハ深ク末世下根ノ人々  
 境界ヲ觀察シ彼等ガ愛慾ノ情ヲ絶チカテ密カニ邪  
 婦非犯ヲ行フヲ見テ反ツテ之ヲ佛法ニ背ケル事ト思  
 惟シ賢愚經毘婆娑論等ニ言フ所ニ基キテ公然ト妻ヲ  
 娶ルコトヲ許セリ誠ニ色慾ノ情ハ絶チ難キ者ト見え

テ空華老人ノ記サレタル如ク紫金臺寺ノ大僧正ハ千  
 手三河ヲ寵シ一乘寺ノ僧正ハ咒師小院ヲ愛サレタリ  
 又之ヲ異國ニ尋ヌレハ五百ノ仙人ハ甄陀羅女ガ歌聲  
 ノ艶ナルニ聞ホレテ禪定ヲ破リキト云フ又久米ノ仙  
 人ハ空中ニ飛ベル時女ノ脛ノ白キヲ見テ其通力ヲ失  
 ヒテ地ニ落チタリト聞キ侍ルナリ然レバ親鸞聖人ノ  
 真宗ハ時ニ應シ機ニ隨ヘルト謂フ可キカ之ヲ思シ召  
 サレテナラシ明治ノ御門ニハ親鸞聖人ニ見真大師ノ  
 謚號ヲ賜ハリヌ  
 但シ是ノ如ク真宗僧徒ハ妻ヲ持ツノ許シテ得タリト  
 雖モ皆共ニ平生ニ和光同塵ノ義ヲ記臆ス可シ決シテ

在家ノ人ノ如ク其ヲ以テ愛慾ヲ遂ントハ思フ可ラズ  
 皆當ニ其妻ヲハ觀音菩薩ノ化身ナル玉女ト見做シ色  
 慾ニ心ヲ迷ハサズシテ共ニ菩提ノ道ニ進ム可シ(今日  
 ノ真宗僧徒方ハ箇様ニ心得ヲラル、ヤ否ヤ)  
 次ニ肉類モ亦末世衆生ノ絶テ忍ビ難キ者ナレバ之ヲ  
 許ス是ハ食ハ菩提ヲ妨グル者ハ心ナレバツカ  
 シ自ラ殺サズ巴レガ爲ニ殺サヌ淨肉ハ之ヲ食フモ何  
 ノ害アラシ是ヲ以テ公然之ヲ許スナリ  
 余意フニ佛法ノ衰微佛者ノ墮落此ニ至リテ極マリ又  
 釋迦牟尼若シ再生セバ必ズ此宗ヲ以テ佛法ニ屬スル  
 者トハ見ラレザルナラン若シ此宗ノ爲ス如クニシテ

往生極樂ヲ福ヲ得ラル、ナラバ此宗ハ淨土宗ヨリハ  
 又一層立テ超タル宗ナリト謂ツ可シ今世無智ノ人々  
 争フテ此宗ニ入ル嗚呼末世下根ノ人斯クモ其數衆多  
 ナルヤ

**法華宗** ハ日蓮上人ノ立ラレタル者ナリ因テ之ヲ日蓮  
 宗トモ云フ日蓮上人ハ建長五年三月廿八日ノ朝旭日  
 ニ向ヒテ南無妙法蓮華經ト唱ヘラレタリ之ヲ法花題  
 目ノ初トス(但シ天台宗ニテハ早クヨリ法花ノ題)日蓮上  
 人ノ日夕念佛無間禪天魔眞言亡國律國賊ト此ノ如ク  
 日蓮ハ他宗ヲ以テ佛理ニ合ハザル者ト爲サレタリ日  
 蓮宗徒ノ言ニ云ク他宗ハ大小乘ノ諸經論ノ中ヲ取り

テ立テタル者ニシテ其經論中ニハ小乘大乘ノ方便ベツノ  
 說少オクカラズ然ルニ日蓮宗ノ用フル法華經ハ一乘眞實  
 ナ示シタル者ニテ既ニ其經ニモ釋迦自ヨ我ハ四十餘  
 年ノ間眞實ヲ顯アツサベリシガ今此經ニ於テ始テ眞實ヲ  
 示スト説カレタレバ有リト有ユル經々ノ中ニ之ニ勝  
 ル者ハ無ク亦宗ト云フ宗ノ中ニ此大乘經ヲ本トスル  
 法花宗ニ逾コトル者ハナシト是レ日蓮宗徒ノ常談ナリ又  
 彼徒ノ論ズル所ヲ聞クニ日蓮宗徒ガ斯ク他宗ヲ賤シ  
 ヲ謗ルハ大慈悲心ニ出タル者ニテ諸佛ノ心ニ適カフ  
 ナリ然ドモ他宗ノ者ノ法花ヲ謗ルハ大罪ニシテ佛ノ  
 怨敵ナリト云フ是ハ全ク上ニ言ハル如ク他宗ヲ以テ

方便ノ小乘ニ屬スル者ト爲スガ故ナリ大智度論ニ曰  
 ク大乘ヲ以テ小乘ヲ謗ルハ佛ノ慈悲ナリ但シ小乘ヲ  
 以テ大乘ヲ謗ルハ佛ノ怨敵ナリト法花宗徒ハ是等ノ  
 語ヲ楯タテマニ取リテ論ズルガ如シ  
 茲ニ其法花經ヲ持ツ人ノ功德ハ如何ニト尋ルニ經ニ  
 曰ク此經ヲ持ツ人ノ功德ハ廣大ニシテ其人ハ百千萬  
 世人ト生ル、時ハ瘡痂トナラズ口氣臭カラズ鼻低ヒカ  
 ラズ色黒カラズ等ト又法花經ヲ謗ル人ノ罪ノ何如ナ  
 見ルニ經ニ云ク法花經ヲ謗ル者ハ命終レハ無間地獄  
 ニ墮オツ地獄ノ果ヲ盡セバ又畜生道ニ墮ツト云フ是ニ  
 於テ法花宗徒ハ高聲ニ呼ハリテ曰フ法花ノ外ハ皆魔

事ナリ

竊ニ案ルニ妙法蓮花經ハ佛道ノ奧義ナル一乘眞實ヲ  
明ス者ニシテ高妙無比ナル事ハ日蓮宗徒ノ言フ如ク  
ナリト雖モ其高妙無比ナル一乘眞實ノ理ハ日蓮宗徒  
ガ論ズル如キ者ニハ非ズ日蓮宗徒ハ初メヨリ只法華  
經ノ尊キ事ヲ知ル而已ニテ未タ法華經ヲ尊キ所以ノ  
理ヲ知ラズ若シ其理ヲ知リタラバ日蓮宗ノ如キ世  
ニ起ラザリシナラント思ハル彼ノ徒ハ猶著婆扁鶴ノ  
妙方ヲ記セル書ヲ得テ只偏ニ之ヲ尊ビ之ヲ重ズルソ  
ミニテ曾テ之ガ言フ所ヲ讀ミ味ヒザル者ノ如シ又連  
城ノ明珠ヲ納レタルト言フ函ヲ受テ徒ラニ其函ノ

ヲ尊敬シテ絶テ其珠ノ有無眞僞ヲ検査セザル者ニ似  
タリ是故ニ其實ヲ言ヘバ日蓮宗徒ハ自ラ法華經ノ尊  
キユトヲ知ラズシテ之ヲ汚ス者ナリ夫レ一乘眞僞ノ  
外ハ皆戲論ナリ是故ニ龍樹ハ諸法實相ノ外ハ皆魔事  
ナリト説キ又抑モ日蓮宗徒ガ尊ブ所ノ法華經ハ權ト  
實トヲ明シテ諸法實相ノ理ヲ示ス大乘經ナリ其中ニ  
地獄極樂ノ果報ヲ説ケルハ皆方便ノ波羅密ナリ然レ  
バ上ニ言ヘル如キ法華經ヲ持ツ者ト謗ル者トノ受ク  
ル所ノ報イハ皆方便ニシテ戲論ノ外ナラズ然ルヲ彼  
徒其戲論ヲ妄執シテ眞實ト爲シ徒ラニ是經ノ名ヲ尊  
ブ而已ニテ一乘眞實ニ達セザルハ迷ヒモ亦甚ダシキ

是取以偏一五  
是取以偏一五

ニ非ズヤ然レドモ佛法ニハ其初ヨリ至高絶妙ノ理論  
ト淺薄ノ戲論ト不可思議ニ善ク並ビ行ハレタレバ日  
蓮ガ法花宗ノ上ニ斯ル妄執アルモ然ノミ怪シム可キ  
ニハ非ズ

以上記セル所ハ佛教ノ大畧諸宗ノ大意ナリ今少シ  
ク讀者ノ爲メニ言ハンニ佛道ノ教ハ甚ダ深遠ニシ  
テ其理ハ最モ深妙ナリト雖モ其眞實ヲ言ヘバ唯一  
ノ大空論タル而已其至ル所ハ空々寂々ノ眞體ニ還  
リ没スルノ事ニシテ其他ニハ更ニ望ム可キ者ナシ  
猶百千ノ小流ノ大洋ノ水ニ合シテ其體ヲ失フガ如  
ク其體既ニ有ルコトナシ復何ヲ言ハンヤ萬法本來

空ナリ復語ルコト勿レ是故ニ人情ニ循テ之ヲ論ズ  
レバ佛道ハ甚ダ快カラザル教ナリト謂ハザルヲ得  
ズ是故面目ヲ知ラズシテ世ノ凡夫ガ皆方便ノ極樂  
ヲ求メ夢幻ノ地獄ヲ畏レテ迷ヒニ迷フハ豈憫然ノ  
至リナラズヤ然リト雖モ佛道ノ眞僞ハ今余ガ此ニ  
決ス可キニハ非ズ之ヲ讀ム者若シ其佛理ニ満足セ  
ズ憚リナク之ヲ信シテ可ナリ余マタ其人ヲ惡マズ  
但シ余ハ其佛理ノ微妙ナルヲ見テ印度人ノ思想ノ  
精細アリシヲ感ズトハ雖モ之ヲ信ズル事ハ得ザル  
ベシ

第三 婆羅門教 (一名印度教) 附禪那宗 琳愛講宗

婆羅門教ハ天竺印度古來ノ教ニシテ其説ク所ハ佛道  
 ノ如クハ意味深妙ナラズ此教ハ佛道ノ盛ニ行ハレタ  
 ル時ニ於テハ大ニ衰ヘタリト雖モ終ニ復其以前ノ勢  
 力ヲ取り還シテ今日マデモ行ハレ來リ又婆羅門教ハ  
 其名ニ見エタル如ク印度ノ婆羅門等ガ作り出セシ者  
 ニテ太古ノ書ナル四維陀ニ本ク者ナリ其教理ハ摩奴  
 ノ經典並ニ其他ノ古詩ニ見ユ但シ彼維陀書ニ見エタ  
 ル所ハ多クハ祭祀禮拜等ノ事ニシテ深キ理論ハ無リ  
 シテ後世ニ至リテ婆羅門等縱マハ之ニ妄想臆説ヲ  
 加ヘテ遂ニ婆羅門教ヲ作り出セリ(佛道新論第  
 二章ヲ見ヨ)此教ニ  
 ハ初ハ然ノミ甚ダシキ迷執モ無リシガ次第ニ誤謬増

加シテ終ニハ笑フ可キノ行爲ヨリ殘酷ニシテ惡ム可  
 ノ風俗マデ多ク其中ニ混シ入ルニ至レリ今其本意ヲ  
 語ラン其説曰ク梵天(婆羅摩)ハ萬物ノ本源ニシテ萬  
 物ハ皆梵天ノ體ヨリ出ツ或ハ梵天之ヲ造ルナリ梵天  
 ノ外ニ二神アリ一ヲ毘尸奴ト曰セ二ツ嘶婆ト曰フ毘  
 尸奴ハ萬物ヲ保存シ嘶婆ハ世ノ終リニ萬物ヲ破壊ス  
 ト是ニ於テ此三神ヲ祭リテ之ヲ禮拜ス但シ此三神ノ  
 中ノ一ヲ取りテ祭ルモアリテ其爲ス所一ナラズ聞ク  
 所ニ由レバ多クハ梵天ヲ第一トシテ之ニ事フト云フ  
 其中ニ梵天ヲ玖璃尸那ト呼ブ者アリ玖璃尸那ハ嘗テ  
 印度ニ生レタル者ニテ梵天ノ降生セル化身ナリト云

フ(摩訶婆羅他即大天竺ト名クル古詩ノ中ニ婆伽婆  
 度基他ト曰フ撮要文アリ其中ニ玖璃尸那ノ言辭ヲ載  
 ス其論甚ダ高シ數十年前英國ノ教師監督斐婆璠トイ  
 フ人印度ノ内地ヲ歴遊シテ尼利亞度ニ臻ル時其地  
 ニテ教ヲ爲ス婆羅門之ヲ訪ヘリ其名ヲ斯亞彌那羅因  
 ト曰フ二百ノ騎兵之ヲ衛リ來レリ彼ノ曰ク我演說ヲ  
 聽ク者此地ニ五千人アリ他ノ地方ノ信徒ヲ算スレバ  
 尙モ五萬人アリ皆我教ヲ聽テ之ヲ信ズト而テ其宣ベ  
 傳フル神ヲ玖璃尸那ト呼ベリ監督斐婆璠留其本名ヲ問  
 シニ婆羅摩ナリト答ヘント云フ  
 偕婆羅門教ハ大畧是ノ如キ者ナルガ此教ニテモ亦理

論ハ只學識アル婆羅門教師ノ中ニ行ハレテ其餘  
 ノ人ハ皆無學ノ佛徒ノ如ク未來ノ安樂ヲ願フテ世ヲ  
 度ルナリ此宗ハ上ニ言ヘル如ク天竺古來ノ教ニテ偏  
 シテ全國ニ行ハレ甚ダ勢力アル者ナリシカ今日ニ至リ  
 テハ學者ノ中ニ之ヲ疑フ者アリ或ハ不完全ト爲ス者  
 アリテ終ニ「ブラモ、ソマシ」ト名クル新教起レリ其中ニ  
 又數派アリ或ハ婆羅門教ヲ改メ或ハ耶蘇教ノ理ヲ取  
 リ或ハ耶蘇、回々、婆羅門等ノ諸教ノ理ヲ選ビ取りナド  
 シテ其教旨トスト云フ但シ其新教ハ皆耶蘇教ノ如ク  
 唯一ノ神ヲ拜スルユトヲ教フルナリ此外尙ホ印度ニ  
 起レルニツノ宗教アリ其一ハ上古ニ起レル者其二ハ



七百年以前ニ起レリ今左ニ之ヲ畧記セン

禪那教ハ大ニ佛教ニ似タル所アリ其僧徒ハ男女トモ皆單身ニシテ夫妻ナシ又其教徒ハ佛徒ト同ク婆羅門ノ教ヲ受ケズ且其教徒ハ例規ニ循ヒテ少クモ一歳ニ一度ハ必ズ僧徒ニ向テ懺悔ヲ爲シ其罪ノ大小輕重ニ隨ヒテ斷食ノ行ヲ爲テ之ヲ償フ禪那宗ニハ五戒五務ノ教アリ五戒ハ殺生戒、妄語戒、偷盜戒、邪淫戒、世慾戒ナリ(此五戒ハ佛教ノ五戒ト異ナラス只佛教ニテハ第五ノ戒ヲ飲酒戒トスル而已)又其五務ハ(一)諸ノ生類ニ慈悲ノ行ヲ爲ス事(二)貧人ニ施シテ爲ス事(三)聖衆(聖衆有德)ニ

(高僧)ヲ生前死後ニ尊ビ敬フ事(四)罪ヲ懺悔スル事(五)斷食スル事ナリ

禪那教ノ理並ニ解脫ノ道等ハ那婆達婆素多羅即チ九理經ト名クル書ニ明ニ見ユ今其九理ノ條目ヲ示サン其目ハ(一)生命活氣(二)無命物(三)善業(四)惡業(五)情慾等(六)克己脩德等(七)絕世慾之道(八)愛着世事等(九)究竟解脫ナリ然レモ其說甚ダ長クレバ一々之ヲ此ニ引ク能ハズ余ハ只其緊要ノ一二ヲ言フ可シ先其教ノ臻極ノ真實ハ何如シ凡テ禪那教ノ理ニ循テ戒行ヲ持ツ者ハ聖者撒度ト成リテ究竟解脫ヲ得其命終レバ至樂ノ天ニ生ル其天ヲ嘶陀嘶羅ト名ク即チ聖

衆城ノ義ナリ是ハ禪那教ヲ信ズル至聖完全ノ人ノ死後  
 ニ往生スル處ナルガ故ナリ此天ニ往生セル者ハ涅槃  
 ニ入りタル者ノ如ク我身ヲ失フニハ非ズ皆各其體ア  
 リテ其大小長短モ亦異ナリ其安住ノ處モ亦各々別ナ  
 リ此天ニ入りタル者ハ再ビ輪廻ノ道ニ迷ヒ出ルコト  
 ナシト云フ但レ此天ニ上ルコトヲ得ル者ハ人類ニ限  
 ルナリ鳥獸等ハ決シテ入ルコト能ハズ如何トナレバ  
 善惡ノ應報ハ自意ニ善惡ヲ取捨スルコトヲ得ル者ニ  
 非レバ受ク可ラザレバナリ人ニハ善ヲ取り惡ヲ捨ル  
 ノ能力アリ鳥獸ニハ有ルコトナシ是其然ル所以ナリ  
 右ハ禪那宗ノ大意ナリ之ヲ以テ佛道ニ比ブルニ此教

ノ方較曉易キガ如シ此教大ニ印度ノ西部ニ行ハル

琳愛謁教

琳愛謁教ハ今ヨリ七百年以前ニ起レリ當時南天竺ニ  
 盧薩巴ト名クル婆羅門アリ自ラ嘶婆神ノ化現ト稱シ  
 テ一教ヲ弘メタリ其教旨ハ嘶婆神ヲ拜スルコトヲ命  
 シ嘶婆神ノ外ニ神ナキコトヲ教ヘ諸ノ偶像邪鬼ニ事  
 フルコトヲ禁ズルヲ主トス是レ其婆羅門教及ヒ禪那  
 教ト異ナル所ナリ此教ノ創立者盧薩巴ハ其君ヲ廢シ  
 テ一時自ラ王ト爲リ勢權威力ヲ以テ此教ヲ弘メタリ  
 此教今尙盛シニ南天竺ニ行ハル  
 以上ノ三教即チ婆羅門教禪那教琳愛謁教ハ昔ヨリ

印度ニ行ハレタル而已ニテ其教徒ハ之ヲ他洲異邦  
 ニ傳播スルヲ氣力ナシ只氣力ナキ而已ナラズ其教  
 ハ耶蘇教ヲ弘メタルガ爲ニ漸々衰ヘ行クナリ然レモ  
 意ヲ用フ可キ者ニ非ズ此外今印度ニ行ハレタル宗教  
 ハ回々教耶蘇教佛教キテ其中回々教尤モ盛ンニ行  
 ハル是レ回々教ハ印度ヲ征伏シタル人及ガ携ヘ來  
 ル者ニテ既ニ數百歳シ久洋ヲ彼土ニ經タレバナリ  
 第四 道教  
 道教ハ西漢ノ時ヨリ盛シニ漢土ニ行ハレタル者ニシ  
 テ長生不死ノ道ヲ教フ之ヲ道教ト名クル所以ハ其源  
 ナ老子ノ道德經ヨリ發シタルガ故ナリ老子ノ言ニ曰

ク

道可道非常道名可名非常名無名天地之始有名萬物  
 之母常無欲以觀其妙常有欲以觀其徼此兩者同出而  
 異名同謂之玄玄之又玄衆妙之門

道教ノ道ハ即チ此道ナリ但シ老子ノ教フル所ハ人偽  
 ナ棄テ天真ニ歸ルノ事ニシテ長生不死ノ仙術ニハ非  
 ズ尙ホ誠ニ老子ノ語ヲ聞ケ

絶學無憂唯之與阿相去幾何善之與惡相去何若人之  
 所畏不可不畏荒兮其未央哉衆人熙熙如享太牢如春  
 登臺我獨泊兮其未兆若嬰兒之未孩乘乘兮若無所歸  
 衆人皆有餘我獨若遺我愚人之心也哉沌沌兮俗人昭

昭我獨若昏俗人察察我獨悶悶澹兮其若海膠兮似無所止衆人皆有以我獨頑且鄙我獨異於人而貴求食於母

老子ガ教フル所ハ大抵此ノ如シ然ドモ道家ハ唯ニ此道ヲ教フル而已ナラズ又此道ニ由テ長生久視ヲ得ルノ理ヲ教フ而シテ其長生久視ノ道ハ天地ノ開闢ニ當テ元始天尊ト曰フ者之ヲ紫筆ニテ空青之林ニ書キ記シタルヨリ起レリト云フ道家ノ説ニ依レバ元始天尊ハ三清ノ一ニシテ即チ老子ノ化身ナリ三清ハ元始天尊太上老君通天教主ヲ謂フ是故ニ道家ノ長生ノ説ハ老子ノ道德經五千言ニハ見エザレトモ老子ノ化現ナ

ル元始天尊ノ教ニ本クニ因リテ亦老子ノ教ナリト謂フ可シ抱朴子ノ言フ所ヲ聞クニ道學ノ經書即チ道教ノ世ニ傳ハレル者ハ數千卷アリト云フ其中ニ老子ノ語老子ノ符等多ク見ユ例ヘバ年ヲ延ル仙藥ヲ得ルニ方リテハ老子ガ授ケタル靈寶五符ヲ佩ルヲ要スト曰ヒ然ラザレバ石芝ノ如キ靈物ハ目ニ觸シズト云フガ如シ是ノ如キ靈符ハ道德經ニ見ザル所ナリ然ドモ老子ハ奇人ナリケレバ是等ノ事ヲ傳ヘケンモ知ル可ラズ古傳ニ依レバ老子ハ周ノ成王ノ時ニ西極太秦竺乾等ノ國ヲ游歴シテ人衆ヲ化導セリト云フ其事固ヨリ信シ難シト雖モ其凡俗ナラザリシ事ハ明カニ知ラル

借今其道蒙ノ長生ヲ教フル所以ヲ尋ヌルニ李攀龍善  
 ク之ヲ説ケリ其言ニ曰ク余嘗テ魏ノ文帝ノ典論ヲ見  
 ルニ其中ニ言ヘル有リ「年壽有時而盡榮樂止乎其身二  
 者心至之常斯未若文章之無窮」下斯ノ言ヲ味フニ誠ニ  
 高論ナリ何ゾ之ヲ狂談ト評ス可シヤ然リト雖モ其至  
 ル所ヲ考ルニ是モ亦虛名タルノミ嗚呼思ヘヨ身後ノ  
 名ハ我ニ何ノ益カ爲シ張季鷹ノ曰ク我ニ身後ノ名ア  
 ラシムルハ生前ノ一杯ノ酒ニ若ズト陶淵明モ亦曰フ  
 吁嗟身後ノ名ハ我ニハ浮煙ノ如シト斯ノ言モ亦達セ  
 ル哉乎若シ之ニ反シテ人ノ形體ト精神トヲ永ク合セ  
 置キテ身モ名モ俱ニ全ク存セシメハ何如シ誠ニ之ニ

過ル愈快ハナシ但シ何ノ學カ能ク之ヲ爲ス即チ神仙  
 之學ナリ神仙之學ハ老君ノ教ニシ即チ道教ナリ然レ  
 バ則チ道教ハ生人之要道不朽之鴻圖ナル哉  
 然ラバ道家ノ所謂道トハ何ノ義ゾヤ夫レ道家ノ道ハ  
 仁義ノ道ニ非ズ五倫ノ道ニ非ズ其義甚ダ廣ク甚ダ遠  
 シ道者溷乾括坤其本無名論其無則影響猶爲友焉論其  
 有則萬物猶爲無焉強名爲道已失其真況乃千割萬判不亦  
 遠乎是故ニ今日ノ道家者流ガ玄妙ノ理ヲ講ゼズシテ  
 只咒術ヲ以テ魔ヲ追ヒ鬼ヲ攘ヒ或ハ門神ヲ祭り宅神  
 ナ祀リテ餘暇ヲ管絃歌舞ノ嬉戲ニ費スハ固ニ道ノ真  
 ニ違フ事ニテ即チ千割萬判シテ眞ヲ去ルコトノ甚ダ

夫レ有無ハ同ク出テ其名ヲ異ニス然ドモ同ク之ヲ玄  
 ト稱ス是ハ老子ノ言ノ如シ玄者何也玄者自然之始祖  
 而萬殊之大宗也眇昧乎其深也故稱微焉綿邈乎其遠也  
 故稱妙焉其高則冠蓋乎九霄其曠則籠罩乎八隅光乎日  
 月迅乎電馳或倏爍而景如逝或飄澤而星如流或混濛而淵  
 如澄或霏霏而雲如浮因兆類而爲有託潛寂而爲無論大  
 幽而下沈凌辰極而上逝金石不能比其剛湛露不能等其  
 柔方而不矩圓而不規來焉莫與往焉莫追乾以之高坤以  
 之卑雲以之行雨以之施胞胎元一龜鑄兩儀吐納大始鼓  
 冶億類廻旋四七近成草昧嚮策靈機吠噓咀吸幽括冲默

舒闡漂鬱抑濁揚清斟酌河渭增之不溢濫之不竭與之不  
 榮奪之不瘁故玄之所在其樂不窮玄之所去器弊神逝夫  
 五聲八音清商流徵損聰者也鮮華艷乎輝煌炳爛傷明者  
 也宴安逸豫清醪芳醴乱性者也冶容媚姿鉛華素質伐命  
 者也其知玄道者可與爲永不知玄道者難與爲存是故  
 老子モ亦玄德ヲ嗟嘆シテ曰ク玄德深矣遠矣與物違矣  
 乃至大順矣ト大順ニ至ルガ故ニ長生ス  
 道家ニ又善惡應報ノ說アリ其言ニ云ク人身ノ中ニ三  
 尸アリ三尸ハ鬼神ノ屬ヒナリ庚申ノ日ニ至ル毎ニ天  
 ニ上リテ司命（司命ハ人之生命）ニ人ノ過失罪惡ヲ訴フ  
 又月ノ晦日ノ夜ニ至レバ竈ノ神モ亦天ニ上リテ人ノ

罪狀ヲ告グ而シテ罪ノ大ナル者ハ其時ニ三百日ノ壽ヲ奪ハル  
 又言フ凡テ道術ヲ修メテ長生ヲ得ント樂フ者ハ仙藥ヲ服セザル可ラズ若シ極上ノ仙藥ヲ服スル時ハ仙術ニ通ゼザル者モ亦登仙スルヲ得ルト云フ是故ニ黃帝ハ不死ノ丹ヲ煉リテ自ラ服シ又許多ノ宮女ニモ服セシメテ共ニ天ニ上レリ但シ仙丹ヲ煉ル事ハ甚ダ難シ之ヲ煉ル者ハ密カニ山ニ入リテ數十日ノ間怠マズ之ヲ煉ル可シ其間ハ齋戒沐浴ハ言フニ及バズ心中ニ俗事ヲ思フ可ラズ其外種々ノ爲ス可キ事アリ之ヲ記セル圖法一卷アリ若シ一タビ不淨ノ思起ルトキハ初メ

ノ勞力ハ無益トナリテ仙藥成ラズ是ヲ以テ古ヘヨリ仙丹ヲ得タル者希ナリ且又最上ノ仙丹ヲ造ルニハ黃金ヲ液テ用ヒザル可ラズ其黃金ハ數十萬金ヲ要スレハ仙丹ヲ造ル事ハ富豪ノ家ニ非レバ能ハズ但シ黃金白銀ヲ造ルノ法アリ左ニ記ス

化黃金法

礬石水二分ヲ鉄器ノ中ニ入レ炭火ニテ之ヲ煮立テ其中ニ汞ヲ入テ善ク攪マハシテ六七度沸アガリタル後ナ之ヲ地ノ上ニ注ゲバ白銀トナル  
 又次ニ丹砂水ト曾青水各一分及ビ雄黃水二分ヲ鍋ノ中ニ入レテ微火ヲ以テ之ヲ煮立テ屢攪マハシテ又之

ナ炭火ノ上ニ掛ケテ沸騰シメ其中ニ前ニ作リタル白銀ヲ入レテ善ク雜セ合セテ六七度沸アガリタル後之ヲ地上ニ注ゲバ凝リ固マリテ黄金トナルナリ是即チ神仙經ニ所謂黄白之方ナリ今讀者チシテ之ヲ作ル事ヲ得セシメン爲ニ左ニ礬石水、丹砂水、曾青水、雄黄水ノ作法ヲ示サン

作丹砂水法

丹砂一斤ヲ生竹ノ筒ニ入レ之ニ石膽ト礬石各二兩ツ、ナ加ヘ其上下ヲ覆ヒ包ミ筒ノ口ハ漆骨丸ニテ堅ク封ジ其乾キタル時之ヲ醇苦酒ノ中ニ入レテ土中ニ埋メヨ但シ其深サハ三尺ニス可シ然セバ三十日ニテ水

ト成ル其色ハ赤ク味ハ苦シ

作雄黄水法

雄黄水ヲ作ル法ハ丹砂水ヲ作ルト同シ但シ石膽ヲ要セズ礬石ノミヲ用フ二十日ニシテ化シテ水ト成ル又曾青水ト礬石水ヲ作ルノ方モ同様ナリ別ニ記サズ道家ニハ又禁咒ノ法アリ善ク之ヲ行フ者ハ疫病ニ罹レル人ト同床ニ臥スモ感染セズト云フ又行氣之説アリ人ハ氣ヲ吸テ生ル者ナレバ其氣ノ精ヲ得テ之ヲ丹田ニ滿ストキハ復寒暖ノ空氣ヲ須ヒズシテ能ク長命ヲ保ツ彼ノ養生家ノ説ハ之ト同類ナリ意フニ之ニ本クナラン



道教ニ又陰陽之術アリ即チ男女房中ノ秘術ナリ黃帝  
 ハ之ヲ得タリト云フ此事モ畧シヌ  
 以上記セル所ハ道教ノ大意ナリ然ドモ今日ノ道家者  
 流ハ是等ノ高妙ノ理ヲ知ラズ此等ノ煉金術ヲ行ハズ  
 只惡魔ヲ追ヒ福壽ヲ與フル等ノ事ヲ言ヒテ愚民ヲ惑  
 ハスニ過ズ墮落ノ極ミニ至レリト見ユ此教ハ只支那  
 ニ行ハレタル而已ナリ佛法ノ公然ト支那ニ入りタル  
 時道家者流ハ之ト爭論ヲ開キ彼ノ印度ノ僧迦葉波ノ  
 爲ニ打チ敗ラレタリ此教モ亦然ノミ觀ル可キ者ニハ  
 非ズ

第五 耶蘇教一名基督教

又誰  
 之  
 神  
 所  
 作  
 力  
 所  
 作  
 力  
 所  
 作

耶蘇教ハ又基督教ト稱ス所謂天下ノ三大教ノ一ニテ  
 最モ勢力アル者ナリ之ヲ耶蘇教ト云ヒ基督教ト稱ス  
 ルハ皆其教主ナル救主ノ名ニ隨フナリ此教ハ凡ソ一  
 千八百八十年前ニ亞西亞洲ノ西部ニアル猶太國ニ起  
 レリ其國民ハ則チ所謂以色列人ニシテ甚ダ古キ人民  
 ナリ猶太國ノ人ハ上古ヨリ唯一ノ造物主ニ事ヘ諸ノ  
 偶像邪神ヲ拜セズ是ヲ其風俗トセリ猶太國ニハ上古  
 ヨリ許多ノ預言者ト稱スル者アリ預言者ハ又先知者  
 トモ代宣者トモ稱セリ皆神ニ代リテ神ノ誠律命令ヲ  
 人民ニ宣ベ傳フル者ナリ其人々ノ宣ベ傳ヘシ所ハ或  
 當時ノ事ニ係リ或ハ將來ノ事ニ涉レリ其將來ノ事ニ

渉ル所ノ言詞ヲ指シテ預言ト云ヒ預言ヲ傳フルヲ先  
 知ト曰フ但シ預言者ハ如何ニシテ神ノ意ヲ知リタル  
 ヤ彼人々ハ皆天ノ示現啓牖ニ由テ神ノ意ヲ知ル事ヲ  
 得タリ  
 預言者ノ預言誠訓等ハ皆載テ舊約全書ニ在リ讀ム者  
 聞ク者皆俱ニ其高遠殊勝ノ金言妙句ニ感シ一誦ニ三  
 嘆スト云フ舊約全書ハ唯先知者ノ預言ヲ載スルノミ  
 ナラズ天地開闢物類創造等ノ事ヲ記セル以色列人ノ  
 古史ヨリ國王ノ讚神歌並ニ箴言等ヲモ載ス其中ニ屢  
 後年ニ一大救主ノ來降アラシム事ヲ説ケリ茲ニ今ヲ去  
 ルコト一千八百八十年前猶太國ニ耶穌ト名クル教主

出デタリ耶穌ノ生レタル地ハ猶太國ノ伯利恒村ナリ  
 耶穌ガ其地ニ生ル、事ハ舊約全書ノ中ナル米迦ト曰  
 フ書ニ預言セラル米迦ノ書五章二節ニ曰ク汝伯利恒  
 以法大ヨ汝ハ猶太ノ地ノ中ニハ小ナルモ以色列ニ王タ  
 ラン者汝ノ中ヨリ出ヅ可シ其王ノ出ル事ハ古ヘヨリ  
 無始ヨリ已ニ定マレリト是ハ正シク耶穌ガ彼地ヨリ  
 出シコトヲ預言セル者ナリト云フ是事ハ又耶穌ノ弟  
 子馬太ガ書キタル福音書ノ第二章六節ニ見ユ  
 耶穌教徒曰ク耶穌既ニ是ノ如ク預言ニ隨ヒテ降誕シ  
 タレバ耶穌ハ上古ヨリ預言シ來レル大救主ナル事明  
 カナリ是レ其耶穌ノ名アル所以ナリ(耶穌ハ即チ救主

ノ義也既ニ大救主ナル時ハ耶蘇ハ凡夫ニ非ズシテ神  
 ノ子ナル事推テ知ラル如何トナレバ舊約書中ニ其大  
 救主ハ真神ノ聖子ニシテ即チ神ナルコトヲ言ヒタレ  
 バナリ猶太國ノ語ニテ其救主ヲ「メツシヤ」ト言ヒ希利  
 尼ノ語ニテハ「キリスト」ト曰フ是ヲ以テ耶蘇ヲ稱シテ  
 基督ト爲スナリ新約書ヲ見ルニ耶蘇自ラ曰ガ神ノ子  
 タル事ヲ明セリ馬太傳福音書ノ第十六章十五節ヨリ  
 十七節マデニ左ノ文アリ

耶蘇弟子ニ問テ曰ク汝等ハ我ヲ誰ト思フヤ弟子ノ  
 一人ナルシモン、ペテロ答テ曰ク師者キリスト(基督)  
 ニシテ活ル神ノ子ナリ、耶蘇ペテロニ告テ曰クヨナ

ノ子シモンヨリハ幸ヒナル者ゾ我ノキリストナル  
 事ハ血肉ノ之ヲ汝ニ示シタルニハ非ズ天ニアル我  
 父ノ示セル者ナリ  
 斯ノ如ク耶蘇ハ明カニ己ガ神ノ子タル事ヲ明セリ此  
 耶蘇自ラ其國ヲ經巡リテ造物主ナル唯一ノ神ノ意ヲ  
 傳ヘ善徳ヲ勸メ惡俗ヲ矯メ天理人道ノ奧義ヲ示シ未  
 來ノ賞罰善惡ノ應報ヲ説キテ天ノ正道公義ヲ世ニ顯  
 ハセリ此等ノ事並ニ其外ノ所爲事業等悉ク舊約書中  
 ノ預言ト符合ス是ヲ以テ人多ク耶蘇ノキリストナル  
 事ヲ認メタリ  
 然ルニ同國ノ學者及ビパリサイ並ニサドカイ宗ノ徒

犬ニ之ヲ嫉ミ又己レノ過失ヲ責メラル、ナ憤リテ遂  
 ニ耶蘇ヲ殺サント謀リ無實ノ罪ヲ着セテ之ヲ訴ヘ國  
 ノ方伯ヲ強テ之ヲ死刑ニ決セシメタリ是ヲ以テ耶蘇  
 ハ終ニ十字形ノ磔柱ノ上ニ釘ツケラレテ死セリ是事  
 モ亦遙カ昔シニ己ニ預言セラレタル事ニテ全ク天下  
 無數ノ罪人ニ代リテ死セル者ナリト云フ耶蘇一時言  
 ヘル事アリ人若シ耶路撒冷ノ神殿ヲ毀タバ我ハ之ヲ  
 三日ノ間ニ再建セシト此意即十人後ニ我ヲ殺スユ  
 ト有ル可レド我ハ三日ノ後ニ復生セント謂ヘル者ナ  
 リ其言以如ク耶蘇ハ十字架ノ上ニ死テヨリ後三日ニ  
 シテ活キ復リ四十日ノ間弟子中ニ顯ハレテ遂ニ弟

子又眼前ニテ天ニ上レリ是ヨリ先キニ耶蘇其弟子ニ  
 告テ云セザルハ、  
 我ハ造物主ナル我父ヨリ天上天下ノ諸權ヲ悉ク賜  
 ハリ又是故ニ汝等往テ萬國ノ人ヲ教ヘ父ト子ト聖  
 靈ノ名ヲ以テ之ニ「バプテスマ」ヲ授ケテ我門徒ト爲  
 セ又我ガ汝等ニ命ゼン所ノ事ヲ萬國ノ人ニ教ヘテ  
 之ヲ守ラシメヨ我ハ誠ニ世ノ終リマデ汝等ト共ニ  
 アルナリ  
 耶蘇ハ斯ノ如ク世ノ終リ迄其信徒ト共ニ在リテ之ヲ  
 守リ世ノ終リニ至リテ自ラ世ニ臨ンテ大審判ヲ行フ  
 ト云フ其時ハ善人ハ善果ヲ得惡人ハ惡果ヲ得テ各々

公平無始ノ判決ニ伏スト云フ耶蘇自ラ此事ヲ言ヘリ  
 馬太傳福音書第二十六章ノ六十三四節ニ云フ  
 祭司ノ長耶蘇ニ曰フ我今汝ヲシテ活ル神ノ前ニテ  
 我等ニ告ゲシム汝ハ實ニキリストニテ神ノ子ナル  
 カ耶蘇答テ曰ク然リ我ハ神ノ子ニテキリストナリ  
 但シ我今汝等ニ告グ此後々汝等ハ人ノ子ガ大權者  
 ノ右ニ坐シ天ノ雲ニ乘テ來ルヲ見ル可シ  
 偕耶蘇ハ上ニ言ヘル如ク三日ノ後々活キ還リテ終ニ  
 天ニ上リタルガ其門徒弟子ハ皆耶蘇ノ命ニ順テ身命  
 ヲ抛テ其教ヲ弘メタリ是ヲ以テ今日ニ至テハ世上開  
 化ノ民ハ多シハ此耶蘇教ヲ奉ズ耶蘇ノ教誡及ヒ一切

ノ事業並ニ其弟子ガ爲セル所ノ諸事ヲ記セル書ヲ名  
 ケテ新約全書ト云フ是ハ耶蘇ガ人類ヲ救フ新契約ヲ  
 立テタルニ由ルナリ之ヲ新約ト云フハ舊約ニ對シテ  
 ナリ是故ニ耶蘇教徒ハ舊約ト新約ノ兩書ヲ用フ今日  
 我國ニ入り來レル耶蘇教ハ即チ是ナリ但シ此教ハ三  
 大派ニ分ル今日魯西亞ノ僧徒ガ傳フル者ヲ「グリーキ」  
 教ト曰フ佛蘭西ノ僧徒ガ宜ブル者ヲ「カトリク」教ト名  
 ク又天主教ト曰フ英米二國ノ傳道者ガ教フル者ヲ「ア  
 ロテスタント」教ト呼ブ或人ハ之ヲ新教ト名ク新教ト  
 曰フハ教ノ新ナルヲ言フニ非ズ中古ノ誤謬ヲ一洗シ  
 テ其教ノ真面目ヲ顯ハシタルヲ謂フナリ聞ク所ニ依

レバ「グリイキ」ト「カトリク」ノ二教ハ教主耶蘇ノ言ヲ妄  
 用シ或ハ其經典ノ語ヲ取捨スル所アリト云フ然レド  
 モ之ニ反シテ「プロテスタント」教ハ新舊兩約ノ書ニ教  
 ル所ヲノミ行ヒテ少シモ我意ヲ加フル事ナシ是ヲ以  
 テ「プロテスタント」即チ新教ヲ最上トス  
 右ハ耶蘇教ノ來歴ナリ是ヨリ耶蘇教ノ理ヲ説カシ上  
 ニ言ヘル所ニ依レバ耶蘇ハ世ノ大救主ナリト云フ但  
 シ世人皆何故ニ救主ヲ必要トスルヤ抑モ世人ガ救主  
 ヲ要スル所以ハ世人皆罪アルガ故ナリ世人皆罪アル  
 トハ何ノ義シヤ人ハ如何ナル世人ニモアレ皆清淨完全  
 ナラザルニ因リテ罪アリト云フ又其罪ハ固ヨリ國法

ヲ犯セル事ヲノミ指スニ非ズ諸ノ不淨ノ念、不義ノ思  
 ナ都テ謂フナリ天下ノ人ノ中ニハ生涯不善ノ念、不義  
 ノ思ヲ起サシムル者ハ恐クハ古來無ル可シ是故ニ新約  
 全書中ノ羅馬書ニ使徒パウロハ預言者ガ傳ヘシ神語  
 ナ引テ曰ク「天下ニハ義人ナシ一人モ有ルコトナシ」ト  
 但シ天下ノ人ノ皆清淨完全ナラズシテ罪人ナル事ハ  
 然ランモ何故ニ又其ガ爲ニ救主ヲ要スルヤ是レ尤モ  
 注意シ尋ヌ可キ所ナリ  
 夫レ天地萬物ノ主宰ナル造物主ハ唯一無極ノ眞神ニ  
 シテ至聖至義至仁至智至正至徳ナリ實ニ人間ニハ眞  
 神ノ威徳ヲ顯揚スル言語ナク眞神ノ榮耀ヲ模寫スル

文詞ナシ如何トナレバ眞神ハ無極無涯ニシテ人間ハ有疆有涯ノ小物ナレバナリ眞神ハ是ノ如キ者ナレバ邪惡ヲ惡ミ玉フハ固ヨリナリ然ルニ人類ハ上ニ言ヘル如ク罪惡ヲ免カレザル者ナレバ造物主ノ至正至義ニ相背キ相悖リ相適ハザル事ハ言テ俟ズシテ明カナリ既ニ造物眞神ノ意ニ適ハザル時ハ人類ハ皆造物眞神ノ罰ヲ蒙ラザルヲ得ズ是レ自然之理ナリ事物ノ理是ノ如シ天理之公是ノ如ク爲ザル可ヲザルナリ然レモ人類ハ皆其罪惡ノ爲ニ罰ヲ受テ沈淪スル事ハ至仁至愛ノ眞神ヨリ之ヲ觀玉フ時ハ憫然斷腸ノ思ヒ有ル此ヲ以テ眞神ハ其哀矜憐憫ノ意ヲ推テ遂ニ人類ヲ極

フ方法ヲ設ケ玉ヘリ其救極ノ法ハ愛子耶蘇ヲ降シテ世人ニ代リテ死刑ヲ受シメ其功德ヲ以テ世人ノ罪ヲ宥ス事是レナリ是ハ全ク神ノ公義ヲ成ス者ナリト云フ如何トナレバ神若シ故ナクシテ人ノ罪ヲ赦サバ神ノ公義破ル可キニ因リテ罪ハ必ズ罪トシテ罰セザルヲ得ザレバナリ然ドモ斯ク悉ク人類ヲ罰スル事ハ神深ク之ヲ憐レニ思ヒ做ル、ニ由リテ其愛子耶蘇ヲ降シテ人類ノ爲ニ死刑ヲ受ケシメ其公義ヲ成シ遂ゲテ人類ノ罪ヲ赦シ玉フ是故ニ耶蘇ヲ信シ頼ム者ハ耶蘇ノ功績ニ覆ハレテ已レハ無罪ノ義人ト成リテ未來永世ニハ天國樂土ニ往住スルユトヲ得ルナリ此事ハ耶

蘇ノ言ニ由テ明カナリ今左ニ其一ヲ引カン  
約翰傳福音書ノ第三章十三節ヨリ以下ニ耶蘇ガニ  
テモトイフ學士ニ答ヘタル言ヲ記セリ其文ニ曰ク  
天ヨリ降り天ニ居ル人ノ子ノ外ニ天ニ昇リシ者ナ  
シモ一モ野ニ蛇ヲ舉シ如ク人ノ子モ舉ラル可シ是  
ハ凡テ之ヲ信ズル者ニ亡ブル事ナクシテ涯リナキ  
生命ヲ得セシメンガ爲メナリ誠ニ神ハ其獨リ子ヲ  
賜フ程ニ世ノ人ヲ愛シ玉ヘリ其獨リ子ヲ賜ヘルハ  
之ヲ信ズル者ニ亡ブル事ナクシテ限リナキ生命ヲ  
得サシメンガ爲メナリ神ノ其子ヲ世ニ遣ハシ玉ヘ  
ルハ世ノ罪ヲ定ントニハ非ズ反ツテ其子ニ由テ世

ノ人ヲ救ハントスルニ在リ是故ニ其子ヲ信ズル者  
ハ罪ニ定メラレズ之ヲ信ゼザル者ハ其罪己ニ定マ  
ル是ハ神ノ獨リ子ノ名ヲ信ゼザルガ故ナリ  
耶蘇ハ即テ上ニ記セル如ク造物主ト同體ナリ之ヲ稱  
シテ神ノ子トイフハ其爲ル、所ニ職ニ由テ言フノミ  
固ヨリ其體ニ二ツアルニハ非ズ而テ又耶蘇ガ凡人ナ  
ラズ天ヨリ出ラレタル事ハ上ニ言ヘル如ク種々ノ証  
據アリテ今之ヲ言ヒ消ス能ハズ預言ノ應驗等其証憑  
ノ著キ者ナリ又耶蘇ノ言行ノミヲ見ルモ耶蘇ノ凡人  
ナラザル事ヲ認ルニ餘リアリ其述ラレタル所ハ悉ク  
金言妙句ニシテ萬世ノ模範ト爲ルニ足り其行ハ清潔



無瑕ニシテ世人ノ標準ト爲ルニ足レリ其驚嘆ス可キ  
言行ハ載テ新約全書ニアリ人々容易ニ之ヲ學ブコト  
ヲ得又多クノ傳道者アリテ今ハ到ル處ニ之ヲ教フ就  
テ學ブ可シ

以上記セル所ハ耶蘇教ノ大畧ナリ此教ニテハ不善  
ノ念不義ノ行ヲ嚴禁シテ人ノ嗜慾ヲ縱ニスルコト  
ヲ許サザルガ故ニ我國ノ人多ク之ヲ信ズルヲ難シ  
トス又神佛二道ノ教導職等己レノ道ノ滅センコト  
ヲ恐レテ力ヲ盡シテ之ヲ防グ但シ佛徒神官等ノ中  
ニハ無根ノ妄言ヲ吐テ耶蘇教ヲ誣ル者アリ大ニ世  
人ヲシテ其判斷ヲ誤ラシム是實ニ嘆ズ可キ事ナリ

又聞クニ天主教ヲ傳フル者及ビ「グリイキ」教ヲ宣ル  
者ノ中ニハ金銀ヲ示シテ人ヲ誘ク者アルト云フ是  
ハ誠ニ其教ノ罪人ナリ天主教ト「グリイキ」教トハ本  
文ニモ言ヘル如ク耶蘇ノ言ヲ曲テ教フル所アリ我  
ノ考案ニ依レバ此二宗ハ餘リ願ハシカラヌ者ナリ  
但シ英米二國ノ教師ガ傳フル所ハ全ク其教ノ經典  
ニ依ルナレバ真ノ耶蘇教ナリ人々善ク之ヲ聽キ理  
ヲ以テ之ガ眞偽ヲハカシ

第六 回回教

回回教ハ牟班麻度ノ立テシ者ナリ牟班麻度ハ初メハ  
亞羅毘亞ノ商人ナリシガ自ラ一新教ヲ開カント欲シ

滅迦ニ至リテ一洞ニ身ヲ潛メ深思熟慮ニ月日ヲ送レ  
 リ時ニ初メヨリ凡知レル波斯人サルマン並ニ耶蘇教  
 ニ通ゼルセルシウス等來リ會シテ之ニ力ヲ添ヘ終ニ  
 一經ヲ作レリ之ヲ沽蘭ト名ク沽蘭ハ亞羅毘亞語ニテ  
 其字義ハ讀ム呼ハル宣示スル布告スル等ノ意ナリト  
 云フ支那ノ回教信徒ハ常ニ此經ヲ天經ト呼ブ又哥蘭  
 經トモ曰フ(支那音ニテハ哥ハ日本ノ沽ト同音ニテ即  
 ナ「ユ」ト讀ムナリ因ニ云フ牟班麻度ハ日本音ヲ以テ亞  
 羅毘亞字ノ「ムハムマド」ヲ寫セル者ナリ支那人ハ之ヲ  
 穆罕默德ト書シ或ハ摩恰默ト書ス是ハ一ハ原語ヲ讀  
 コトノ異ナルニ由リ一ハ支那ニ「マツド」等ノ音ヲ寫

ス字ナキニ由ル又滅迦ヲ支那ニテハ默伽穆迦麥迦ト  
 ド書クナリ右ハ念ノ爲ニ記ス  
 爰ニ牟班麻度ハ沽蘭經ヲ携ヘテ其洞穴ヲ出デ滅迦ノ  
 人ニ告テ曰ク我一日眞理ヲ求ムル心ヲ懷イテ滅迦ノ  
 傍リナル山ニ僂佯セル時忽テ幻ニ一神人ノ稜威凜々  
 ト天地ノ間ニ座ヲ占ルヲ見ルアリ甚ク畏レテ妻ヲヤ  
 デシヤノ許ニ走セ行キ套衣ヲ以テ身ヲ包マシメテ其  
 威嚴ヲ避ケタリ然ルニ其神人進ンデ我ニ近キ我ヲ呼  
 デ曰ク

汝套衣ニ身ヲ包メル者ヨ起キ舉レ傲メ守レヨ汝ノ  
 主(神)汝ヲ大イナラシメ玉フ汝ノ衣裳ヲ清メヨ惡ム

可キ事ヲ避ケヨ、汝ノ主忍マテ汝ヲ待玉フ  
トテ後ニ有シ大審判ノ日ノ事ヲ我ニ告ゲタリ其神人  
ハ則チ天使ノ長ニテガブリエルト曰フ者ナリト其事  
ハ沽蘭經第七十四篇ノ素羅ニ見ユ、牟班麻度又曰ク我  
一時天ニ昇リ耶蘇教ノ經典ニ見エタル多クノ預言者  
代宣者等ヲ見又耶蘇ニ遇ヒヌ時ニ唯一ノ眞神我ヲ封  
シテ神命ヲ傳フル使者ト爲シ天使ガブリエルノ口ヲ  
經テ我ニ神命ヲ傳ヘ玉フ而テ天使我ニ告テ曰ク  
汝至高ノ神ノ御名ヲ讚メ尊メ、神ハ萬物ヲ創造シ萬  
物ヲ保存シ玉フ、神ハ萬物ノ命運ヲ定メ玉フ、又草田  
牧場ヲ作り玉フ、而テ神ハ又其萬物ヲ碎イテ微塵ト

爲シ玉フ我等(天使自)ハ汝ニ教フ此沽蘭經ヲ唱ヘヨ、  
一言半句モ忘ルナヨ努メ、夫レ神ハ誠ニ顯ナル事モ  
隠レタル事モ俱ニ均ク知り玉フツ  
ト天使斯ク教フト其事ハ沽蘭經第八十七篇ノ素羅ニ  
見ユ、牟班麻度又曰ク我ハ神使ノ職ヲ帶テ神ノ意ヲ人  
ニ傳フ沽蘭經ハ乃チ神ノ示現ナリ之ヲ疑フ者ハ必ズ  
神罰ヲ蒙ル可シ故ニ天使我ニ告テ曰ク  
時ニ其人顧ミテ翬感シ艷然タリ、又身ヲ轉シ之ヲ藐  
視シテ曰フ此ハ只巫術者ノ空談ナル而已、是ハ只凡  
人ノ語ナル而已ト汝ハ必ズ其人ヲ地獄ノ猛火ニ投  
ゲ入シ

ト偕牟班麻度ハ是ノ如ク先ヅ滅迦ノ人ニ告ゲタリト  
雖モ其教フル所ハ大ニ從來ノ宗教ト異ル所アルガ故  
ニ人々容易ニ之ヲ信ズルコトヲ得ザリキ從來ノ宗教  
ハ偶像邪神ヲ祭リ之ニ幸福ヲ祈ル者ナリシニ牟班麻  
度ハ唯一ノ真神ニ拜事スルコトヲ命ジ自ラ偶像ヲ毀  
テ邪神ヲ廢スルコトヲ務メケレバ邑人ノ驚愕一方ナ  
ラズ其不平騷擾ハ恰モ今日日本ノ神職僧侶等ガ耶蘇  
教ニ對スル舉動ノ如クナリシ又唯是ノミナラズ牟班  
麻度ハ(上ニ言ヘル如ク耶蘇教徒及ビ波斯教徒ノ幫助  
ヲ受タルガ故ニ)耶蘇教ノ經典ノ中ヨリ多クノ道理法  
則ヲ取リテ之ヲ以テ已レノ新教ヲ作り波斯教ノ地獄

ノ說ヲ借リテ之ヲ用ヒタルニ因リテ滅迦ノ人ハ大ニ  
之ヲ惡ミ牟班麻度ヲ以テ外國人ト黨ヲ結ビ事ヲ謀ル  
ト爲シ終ニ彼ヲ攻テ滅迦ノ地ヨリ追ヒ出セリ牟班麻  
度此難ヲ避テ米地拿ニ逃レ彼處ニ於テ大ニ其新教ヲ  
弘メ自ラ信徒ヲ率<sup>ヒキ</sup>井テ刀刃兵火ヲ以テ其教ヲ弘ム牟  
班麻度ガ米地拿ニ逃レタル日ハ西洋紀元六百二十二  
年六月十六日ナリ該教徒此逃走ヲ名ケテ「ヒシラ」ト曰  
ヒ又此年ヲ以テ紀元ト爲ス「ヒシラ」ハ出發ノ意ナリ後  
年ニ至リテ牟班麻度ハ終ニ其敵ヲ往伏シ自ラ亞羅毘  
亞ノ王ト爲リテ徧ク其新教ヲ布ケリ是ヨリ其教四方  
ニ弘マリテ遂ニ西ハ歐羅巴ニ至リ東北ハ印度、斯利亞

蒙古支那ニ及ベリ

茲ニ今活蘭經ヲ通覽熟讀スルニ其中ニ謂フ所ノ眞神ノ性質、未來ノ賞罰、未來ノ復活、並ニ大審判等ノ事ハ皆耶蘇教ノ言フ所ヲ取リタル者ニシテ更ニ異ル所ナシ又其訓誡等モ皆耶蘇教ト同シ只其耶蘇教ニ異ル所ハ同時ニ多妻ヲ聚ルコトヲ公許スルト眞神ニハ子無シト言ヒテ耶蘇ノ救主ナルコトヲ認メサル事ト天國ノ樂園ニ嬋妍ノ美女及ヒ乳酒密等ノ美味アル事ヲ説クト人類ノ外ニ仙人ノ如キ者アル事ヲ説ク等ナリ其外ハ皆同シ人類ノ罪惡ニ沈没スル事ヲ言フモ亦同シ只此教ニハ神子救主ヲ要セズ牟班麻度ノ神使タル事ヲ

信シテ眞神ヲ敬フ者ハ極樂ノ幸ヲ得ルナリ今左ニ活蘭ノ本文ヲ引テ回回教ノ耶蘇教ニ異ル所ヲ示サシ先眞神造物主ノ事ヲ言ハンニ活蘭第百十二篇ノ素羅ニ曰ク

神ハ唯一ナリ、神ハ永遠無窮ナリ、神ハ生マズ又生レズ、神ニ似タル者有ルコト無シ

ト次ニ仙ト人トノ創造並ニ天國地極ノ事ヲ見ヨ第五十五篇ノ素羅ニ曰ク

神ハ塵土ヲ以テ人ヲ作り、無煙ノ火ヲ以テ仙(原語)ヲ造リ玉ヘリ、神ノ命ニ順ハザル惡人ハ皆地獄ニ墮テ火焰ニ燒カレ、鎔銅ニ糜爛ス、是ハ活蘭經ヲ偽書ト爲

シタル罪人ノ墮ル地獄ナリ、但シ眞神ヲ敬ヒタル者ハ二ツノ樂園ニ入リテ遊ブコトヲ許サル其園ニハ常<sup>トキハ</sup>青ノ樹木生ヒ飾リ、二流ノ泉水<sup>イヅミ</sup>潺々ト音<sup>ナド</sup>涼シ、又萬種ノ花果アリ、此園ニ入ル者ハ錦<sup>ニ</sup>綉ノ床ニ横臥シテ歎樂ヲ極ム、花果其傍<sup>カタヘ</sup>ラニ滿テ之ヲ得ルコト意ノ如シ、園中ニ衆多ノ美女アリ、艷容旖旎、邀遊歌詠ス、美目盼然尤モ意ニ可<sup>カク</sup>フ、皆人仙ノ未ダ嘗テ見ザル所未ダ、曾テ觸レザル所ノ者ナリ、是ニ於テ其人之ヲ娶リ、柔軟約采ノ褥<sup>シヤ</sup>ニ臥ス

ト又第四十七篇ニハ樂園ニ乳蜜酒等ノ美味有ルコトヲ説ケリ次ニ婚姻ノ事ヲ言ハンニ第四篇ノ素羅ニ四

人ノ婦女ヲ娶ルヲ許ス事ヲ説ケリ然ドモ異教ノ婦女ヲ娶ルコトヲ許サズ又異教ノ男子ニ嫁グコトヲ禁ズ(但シ牟班麻度ハ特許ヲ得テ九人ノ婦女ヲ娶レリ其外又奴隸ノ女數人ヲ納レタリト云フ)是等ノ事ハ皆耶蘇教ト異ル所ナリ其外別ニ舉テ言フ可キ事ナシ

右ハ回回教ノ大畧ナリ是ノ如キ宗教ハ然ノミ觀ル可キ者ニ非ズ其中ノ觀ル可キ所ハ皆他教ノ説ナリ然ドモ無知ノ凡俗ハ此ノ如キ天國ノ快樂ヲ聞テ多ク之ヲ喜ビ求メタリ哀トモ言ハン方<sup>カタ</sup>ナシ然ルニ近世ニ至リテ文化ノ國ニ回回教ヲ讚嘆スル奇人起レリ不思議ト言フモ愚<sup>オロ</sup>カナリ彼ノ世界ニ名ヲ轟シタ

ル獨逸人ゴイテノ曰ク沽蘭ノ文章ハ善ク其經意ニ  
適ヒテ甚ダ力アリ意フニ此書ハ永久ニ勢力ヲ世ニ  
及ボス可シト嗚呼是ハ何ノ言ゾヤ道理ヲ棄レバ去  
來知ラズ道理ノ有ン限リハ斯ル宗教ハ信奉ス可キ  
者ニ非ズ爭デカ永久ニ行ハル、コトヲ得ン

明治十四年十月廿七日  
十一月三十一日出版  
（定價金四拾錢）

新潟縣平民

著述人

高橋吾良

神奈川縣下橫濱宮崎町  
十七番地寄留

長野縣平民

出版人

飯島靜謙

東京府下京橋區加賀町  
八番地寄留

東京銀座三丁目

發兌書肆

十 字 屋

同芝神明前

山中市兵衛

賣

同通り三丁目

丸 屋 善 七

捌

同通リ二丁目 山城屋 佐兵衛

同通リ一丁目 須原屋 茂兵衛

同京橋區鍋町 兎 屋

同横山町三丁目 辻岡屋 文助

同八形町通リ 法木 徳兵衛

書

同神田錦町一丁目 十 字 屋

同芝日影町一丁目 十 字 屋

同新肴町農書館 神 谷 齋

肆

同神田元町通三丁目 福 音 舍

同神奈川縣横濱 英米 聖書會社



31
14

